

F D ・ S D活動報告書

令和4年度

羽陽学園短期大学

令和4年度FD・SD活動報告書

目次

令和4年度	羽陽学園短期大学のFD・SD関連事業について	1
令和4年度	FD・SD推進委員会事業計画	2
令和4年度	第1回FD・SD研修会	5
令和4年度	第2回FD・SD研修会	10
令和4年度	学内ワークショップ	15
令和4年度	公開授業	17
令和4年度	FD・SD懇談会	25
令和4年度	山形県私立短期大学協会主催合同研修会 (山形県未来創造プラットフォーム共済事業)	35
令和4年度	教員個人目標に対する自己評価	40
令和4年度	卒業時満足度調査	56
令和4年度	授業改善アンケート(前・後期)	58

令和4年度の羽陽学園短期大学のFD・SD関連事業について

FD・SD推進委員会委員長 伊藤 和雄

今年度も新型コロナウイルスへの対応を行いながら、いくつかの活動を行った。

定例FD・SD懇談会は、9月より2月まで6回(内学生参加4回)行った。また、FDネットワークつばさによって行われてきた会議や大学間連携SD研修会等も、オンラインでの研修、また徐々に対面での機会が増えてきた。

学内公開授業については、後期に教員全員対象で同じ授業を参観する形で行ったが、諸事情で参観出来ない教員もおり残念ながら授業検討会を実施することができなかった。来年度においては公開授業参観と授業検討会をセットで実施できるよう検討したい。

授業改善アンケートについては、これまでずっとつばさフォーマットの質問紙を用いたが、つばさ加盟校の中で実施する大学が少なくなったという事情もあり、グーグルフォームを利用し、スマートフォンによるアンケートに変え実施した。

授業については、全員マスクを着用し、座席は原則固定机間の間隔を十分に確保し、手指消毒、換気をしっかり行う等の対策をとりながらずっと対面授業を行ってきた。

どのような状況下においても本学は幼児教育や保育、介護福祉について学ぶ大学である。そして、人と人が関わることを最も大事にする仕事をする人を養成、育成する教育機関である。これからも、授業の改善に日々努め、人、社会に貢献できる人材を養成していきたい。

令和4年度 FD・SD推進委員会事業計画

◇事業内容

(1) 定例FD・SD懇談会

別記の月間目標や懇談会テーマについて各自の取り組みを検証し、意見交換を行う。学生FD推進のため、定例FD・SD懇談会への学生の参加については継続する。

(2) 公開授業－授業検討会

公開授業については、後期に特定の教員の公開授業を設定する。公開授業については授業検討会とセットで進める。

(3) FD個人目標－自己評価

前年度の自己評価を踏まえ、各教員が年度当初に具体的な目標を掲げ、年度末にその自己評価を行う。目標と自己評価は掲示とFD報告書へ記載し、公表する。

(4) 授業評価

全ての授業で行う。専任、非常勤ともにフォーマットの授業改善アンケートを用いる。

(5) 卒業時満足度調査

今年度も実施する。教授会で報告し担当部署には学生の不満を検討してもらう。

(6) FD・SD活動報告書の作成

内容を精査の上、記載事項の取捨選択を行い、紙面のさらなる充実を図る。

(7) 学外企画への参加依頼/相談

学外のFD・SD企画、研修などには可能なものに参加し、情報収集に努める。教職員の大学運営への参加意識を高める。

(8) FDネットワークつばさとの連携

学生が参加できる事業については、早期に呼びかけ学生の興味を喚起したい。他大学の学生との交流を通して、広い価値観を持った学生に育成する。

(9) 新規事業の企画・学内ワークショップの企画案

教員懇談会、学内ワークショップで「授業改善アンケート、学修成果等アンケートの結果」をテーマにする。教員懇談会、学内ワークショップへの学生参加。ゼミ活動について見直す機会をつくる。

(10) 学生FDについて

教員懇談会等への参加を含め、学生とともに羽陽学園短期大学の教育をつくりあげていく意識を浸透させる

OFD・SDの基本目標

FD・SD は学生の学びの質向上を目的とし、以下の基本目標を達成するために教職協働で取り組む。

「学生の学ぶ意欲を駆り立てるような働きかけを行う」

「学生が自らの行動について振り返り、自ら成長できるように働きかける」

「学習に適した授業環境づくりに努める」

OFD・SD月間目標とFD・SD懇談会進行分担

月間目標や懇談会テーマについて、自らの教育活動や職務を振り返り、それぞれの教職員が対等な立場で意見交換を行う。また学生の現状、学習状況などについて、情報を交換できる機会にする。

後期から定例のFD・SD懇談会を復活する。昼食はないため、12:25～12:55。初めの20分が懇談、残り10分が発表・まとめ。学生参加の場合、学生に弁当を支給する（教員クラブ費から）。

- 9月 目 標：「年間目標の中間評価と修正を行い、課題を明らかにしよう」
テーマ：「学習成果アンケート集計結果から教育改善について考える」 9/29(木)
司会：伊藤 記録：木村 ※学生参加
- 10月 目 標：「学生とのコミュニケーションで分別ある使い分けができるような支援を行う」
テーマ：「良い授業とは」 10/27(木)
司会：高桑 記録：小森谷 ※学生参加
- 11月 目 標：「学習環境を整えるために何ができるかを考えよう」
テーマ：「学生が学校に求めること」 11/24(木)
司会：花田 記録：城山 ※学生参加
- 12月 目 標：「ゼミの活動を振り返ろう」
テーマ：「社会人経験者から見た羽陽短大・これいいの？これいいね。」
12/22(木)
司会：小田 記録：白崎 ※学生参加
- 1月 目 標：「2年間、あるいは1年間の学生の成果を見つけて、褒めよう」
テーマ：「授業改善アンケート集計結果から授業改善について考える」 1/26(木)

司会：木村 記録：宮地

2月 目 標：「今年度の自らの教育活動を振り返り、課題を見つける」
「来年度に向けた明確な教育活動の展望を立てる」

テーマ：「仕事の効率化のために出来ること。今、これは余計だ!!」 2/21 (火)

司会：渡邊（高桑） 記録：大関

令和4年度 第1回FD・SD研修会 記録

1. 開催日時 令和4年4月28日(木) 16:05~17:00
2. 場 所 会議室
3. 内 容 「進学ガイダンスの進め方、留意点等」
講師：学科長 高桑秀郎 教授
4. 出席者 渡邊、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、大関、宮地
伊藤、白崎、小田、城山、小森谷、木村(記録)
星、原田、浦山、伊藤、芳賀、加藤、高橋

「進学ガイダンスの進め方、留意点等」、ガイダンスで何を伝えていくかについて、FD・SD研修会が開催された。研修会の講師である学科長・入試企画部長の高桑先生から、趣旨説明と具体的に何を説明していくかの紹介をいただいた。また、ベテランの先生方からも工夫している点、配慮している点等について御意見をいただいた。

<学科長・入試企画部長 高桑先生より>

- ・退職した教員が増え、新任教員にはガイダンスが必要。ガイダンス出席にお願いできる教員が限られてきていたので、だれが行ってもある程度の説明ができるようにしておきたい。
- ・ガイダンスではガイドブック(要覧)を必ず配布する。来訪者記録がある。
- ・ガイダンスではブースがあり、ガイドブック(要覧)資料を配布し、これをもとに進める。高校生には、何が聞きたいかを尋ねる。聞きたいことがあればそれを優先する。
- ◆羽陽短大について ガイドブック(要覧) p8~p9
 - ・幼児教育科単科の短期大学である。入学後に幼児教育コースと福祉コースに分かれる。どちらのコースでも、幼稚園教諭と保育士、両方の資格が取得できる。
- ◆認定こども園について
 - ・認定こども園が増えてきているので、幼稚園教諭と保育士、両方の資格を持っていると保育
教諭として卒業後直ぐに仕事ができる。専門学校だと、幼稚園教諭二種を取得できるところは少ない。羽陽短大ではどちらもとれる。
- ◆専攻科福祉専攻について

・専攻科があるのも羽陽短大の特色である。短大から進学して1年間学ぶと介護福祉士として

の受験資格が得られる。これは山形県先駆けで実績をあげている。ただし保育士資格をとらないと専攻科にいけない。保育士資格を取得できれば、幼児教育コースと福祉コース、

どちらからでも専攻科に進学できる。1年時に担任と相談してコースを決定することができる。

◆就職率について

・本学で資格取得した就職率は100%、全員が専門職を選んでいる。

◆福祉コースについて

・福祉コースに進む人もいる。子どもの職に就きたくて入学したけれど、実習にいて児童養

護施設等に就職を希望する人もいる。専攻科で、介護の資格を持っていた方が有利である。障がい者の施設にいて、専攻科にすすみたいという選択もある。

エピソード: 専攻科の学生が行事の観劇の際に、お年寄りはずに座るのが辛いので椅子を出した方がよいという気付きあり、お年寄りから感謝の手紙をいただいた。

・介護福祉士の資格をもっていると職業選択の幅が広がり、「保育の観点をもった介護福祉士」「介護の観点をもった保育士」といった切り替えもできるのがメリットである。

◆入試について ガイドブック(要覧) p24～p26

- ・1. 学校推薦型選抜が一番多い。高校時代の成績を評価
- ・2. 総合型選抜も希望者が増えてきているので定員を増やす。意欲、今後の展望を評価
- ・3. 一般選抜 学力を評価
- ・一般は評定で3.0以上 指定校は3.5評定あるとクリアできる。

◆学校生活について ガイドブック(要覧) p16～p17

・一日のスケジュールは、午前2コマ午後3コマあり、授業終了時刻 18:00 ちょっと前。授業は月曜日～金曜日、2年生は土曜日授業あり。資格を取らせる学校なので、どこの養成校も大体同じであまりかわりない。

◆実習について ガイドブック(要覧) p11

- ・資格取得のために必ず実習がある。2年間で10週間の実習と授業がある。学生生活の中で、十分の一は実習にあてられる。
- ・実習を学びに結びつけるために、教員が巡回指導に必ず行く。実習に行く前に巡回する教員が個別指導を行う。

◆キャンパスマップについて ガイドブック(要覧) p22～p23

・近隣施設の羽陽の里と高揃幼稚園は、授業でも使う施設。

◆ピアノについて

- ・ピアノに関しての質問が結構ある。⇒能力別にクラス分けをし授業している。

エピソード：ピアノ練習室で、学生は休み時間を利用したり、電車通学の学生は朝早くきいたり、寮生は学校近いので練習時間を確保したりして、2年間で上手になった学生もいる。マメに練習するとよい

以上の説明で、40分位になる。

その他、質問を想定して

◆委託寮について ガイドブック(要覧) p 20

- ・一軒家で、居室は個室。共同の炊事場、トイレと風呂。合宿所みたいなどころである。

◆オープンキャンパス・公式ラインについて

- ・タブレットでツイッターの写真等を見せながら説明する、質問がきたら応答する。
- ・オープンキャンパスは参加してもらうように依頼する。
- ・公式ラインは、入試についてもラインで質問できる。

◆ピアノに関して

- ・授業だけではうまくならないので、上達するにはピアノの教員に上達のコツを聞くなどして
学生が練習できる環境が整っている。

◆委託寮に関して

- ・個室以外は共同なので安い。また、冬季間だけ借りて通うということもできる。アパートと
違い誰もいなくて寂しいということはない。

◆就職に関して

- ・関東方面は羽陽短大とつながりのあるところがあることを紹介する。

◆「東北文教短期大学との違いは？」と質問されたら

- ・詳しくは知らないがと言い… 羽陽短大のよいところを伝える。
羽陽短大の学生は、人とかかわることが好きである。
専攻科等があるので先輩から直接話を聞くことができる。

手遊び等(いろいろなネタをもっている)が得意な学生が多い。

◆図書館について

- ・「羽陽学園短期大学の図書館がすごい！」花田先生の作品も飾られている。
とにかく保育に関する専門書と絵本や紙芝居がたくさんあることをPRする。

◆ガイドブックのデータについて ガイドブック(要覧) 卒業時満足度調査データ p 2 1

- ・データを見せながら進めていく。
エピソード：以前、高等学校の教員から「あのデータ本当ですか？」の質問あった。
操作等はしておらず、満足度が高いこともPRする。

<小田先生より>

- ・専門学校と羽陽短大の違い。ガイダンスでは、内容よりもどう集客するかが問題である。
学生が作った看板などを持って行ったり、人気ある大学に並んでいる生徒に直接声を掛けたり…まずは集客することが大事である。

<星事務局長より>

- ・事務室の先生方と学生のやりとりが和気あいあいとしていて、学生も安心できるのでないか。

過去に進路指導「山短と羽陽短どっち？」と聞かれたことがあり。「羽陽短大は面倒見が良い」

というのが大事なポイントになる。

- ・入学時に進路を多様に選べるところは人気がある。羽陽短大は専攻科があるところが特色。

経験を踏まえて選ぶことができる。

<学長先生より>

- ・羽陽短大は、安心できる学校をめざしている。このようなキャッチコピーがあるとよい。
羽陽短大の温かいイメージが伝わる。

<荒木先生より>

- ・ガイダンスでは、全部やれるはずがない。何をここの売りにするか核として出すことが大事。

まずは何を目指しているかを聞く、福祉等に興味があるか等を聞く。

- ・カリキュラムに違いがあることを伝える。回り道、寄り道しながら、学びながら介護の資格

がとれることを伝える。なりたいことを聞き、安心感をもたせることが大事である。

<高桑先生より>

- ・先生方それぞれ自分の分野、各々特色あってもよい。
- ・HPを見てと依頼する。最終的に見てきたという声があるのでホームページに誘導する。
ラインで分からないところを聞けること、オープンキャンパスは羽陽短大の雰囲気分か

る、というように誘導することが大事である。

・会場ガイダンスは水曜日木曜日が多いので、教員参加が難しい教員もいるがご協力を宜しくお願いしたい。

・高大進路ガイダンスは担当者だけでは大変なので、どの教員がいつでもできるように研修会

開催したい。協力し合って成功に導けるようにしたい。

令和4年度 第2回FD・SD研修会 記録

1. 開催日時 令和4年6月30日(木) 14:45～15:35
2. 場 所 会議室
3. 内 容 「高大連携進学ガイダンスについて」
講師：学科長 高桑秀郎 教授
4. 出席者 渡邊学長、高橋、高桑、松田、花田、大関、宮地
伊藤和、白崎、小田、城山、小森谷、木村（記録）
星、浦山、伊藤一、芳賀、宍戸 18人参加

「高大連携進学ガイダンスについて」のFD・SD研修会を開催した。
研修会の講師である高桑秀郎教授からは、本学で取得できる資格と職業の魅力を伝える内容のPowerPointを使った進学ガイダンスについての説明を伺い、高校生に伝えるポイントを学んだ。また、幼児教育科、福祉専攻科、各卒業生の動画を視聴した。

研修会で提示していただいたPowerPointとmovieは、学内サーバー教員共有、高大連携進学ガイダンスのフォルダにあり、短大のだけれどもガイダンスできるようにしてあることを確認した。

<ガイダンスの主なポイント>

保育の話

- ・幼児教育では、主体性を育むことが重要視されている。
短大では、与えられた課題だけではなく探求していくことが大事
- ・人の自立を支える職業 ・人間の子どもの未熟さ、周りの手助けが必要であること。
- ・少子化が進んでいるのに、保育士が不足している理由
- ・認定こども園では、保育士と幼稚園教諭両方の資格が必要
- ・短大の養成校だと最短での取得方法が可能である。
専門学校との違い、専門学校にはいろいろなハードルがあるところが多い。
- ・教育にかかる金額が違う、国からの補助金が違う。
充実した学生生活を送るのであれば短大の方がお薦め。
例：図書館には司書の先生もいる。絵本や紙芝居も豊富。ピアノ練習室がある。

◇認定こども園に就職した先輩の動画

卒業生 引地さんより高校生へのメッセージ

「やりがいを感じられる仕事、保育の仕事には正解がないので自分らしくチャレンジできる。自分の可能性を広げられる。いろいろなことにチャレンジしよう！」

介護の話

- ・人の一生にかかわる仕事
- ・家族介護の大変さ辛さ 例：老老介護問題、2025 問題
家族が介護すると 24 時間、専門職は離れられるし気持ちの切り替えができる。
- ・労働と賃金の改善について 介護職はブラックというイメージが残っているが…
- ・卒業生は社会福祉法人に就職 国の補助金を得ているところでも人手不足がある。
- ・介護職のルートとしては、資格取得は養成校＋専攻科のほうが良い。東北文教大学との比較
- ・介護では山形県にとって大変な時代が。地域のお年寄りには地域の人が見るのが一番よい。

◇認特別養護老人ホームに就職した先輩の動画

卒業生 阿部さんより高校生へのメッセージ

「やりがいを感じられる仕事、人が好きな人、人を喜ばせたい人」

- ・アンケートをとる。来年はどういった内容がよいのか高校の先生と調整している。
信頼関係づくりにもなる。
- ・次年度以降、ガイダンスを実施する学校を増やしていきたい。
高校生と短大教員との接点を増やしたい。

質疑応答

学長先生・ガイダンスに参加する生徒は？

高桑先生・鶴岡中央はある程度興味がある生徒を集めてもらっている。1年生はたくさん来る。

上山明新館は職業に就きたい生徒。酒田光陵は2年生。医療系等他の分野と同時進行

である。

学長先生・高校の学習指導要領は変わったか？高校のキャリア教育はどうしているのか？

大学として、どういう知識をもっているのか分かっていただけの方がよいのでは…例えば、美容師は土日休みなしなので離職率が高いなど…どれ位のイメージもっているか。入試企画の方で、各高校の総合科等で職業について調べた情報等をも

っているとよいのではないか。

高桑先生・酒田光陵高校は保護者もくる。副理事長先生は、処遇改善や奨学金についての話。

山形県の修学資金では、学費が2年間で250万その内150万は返還不要となる
と

のように、選択肢になるように具体的に話している。

高橋先生・谷地高校から断られた理由は？

高桑先生・担当の先生が学術的な満足感を得られるものを求めている。

星事務局長・県の連絡大学進学校のグループに入っている。

星事務局長・キャリア教育、進学ガイダンスは、自前は大変なので外注している。

1年生の夏休みなど、できるだけ早い時期にした方が良い。

天童高校の福祉コースは2年生の11月に選択しなければならない。

2年生の夏休み、1年生の早い段階から呼び込んでいくとよいのではないか。

高桑先生・東北文教大学は、中学生も対象にしている。

1年生の夏休み前など、早い段階でその興味に向かって学習していくということ
が

大事なので… そのきっかけとなるのがキャリア教育である。

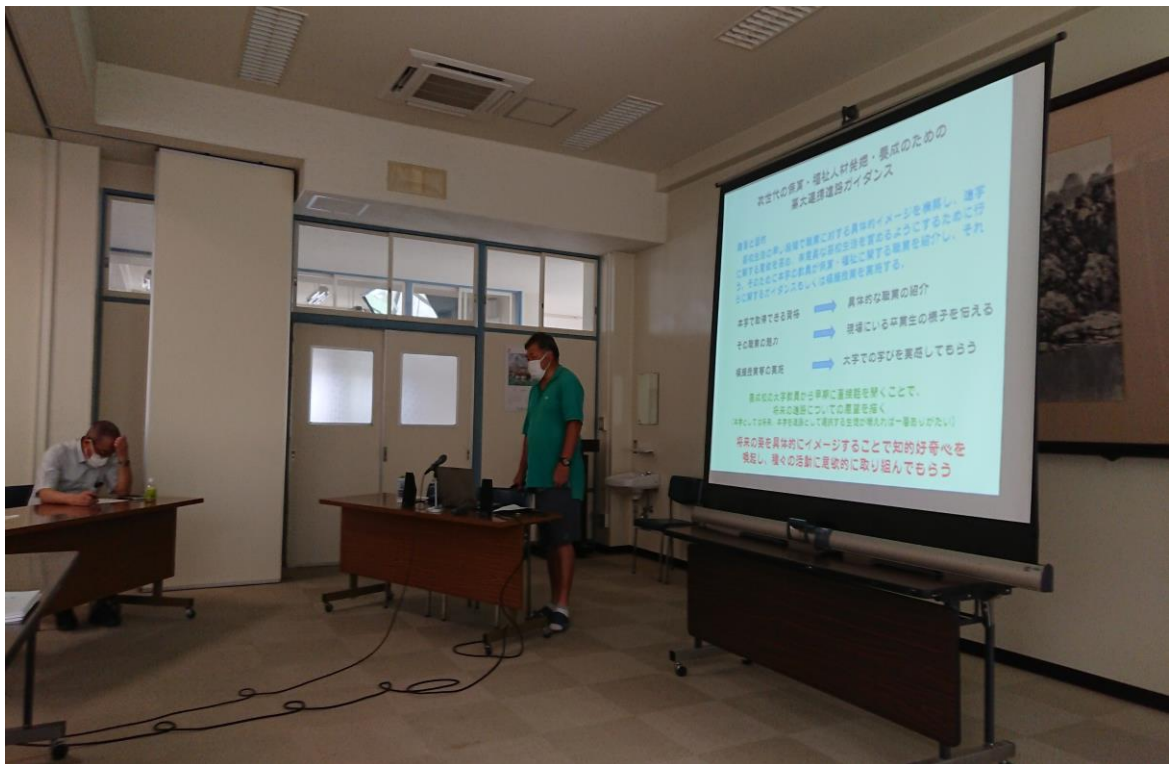
星事務局長・羽陽短期大学の名前を知らない。保育と福祉、うちの短大の魅力をもっと打ち

出してもよいのでは。上山明新館は1学級減なのに今年7、8人入っている。

1年生時の進学ガイダンスが大きな要因となっているのではないか。

高桑先生・上山明新館と鶴岡中央高等学より依頼きている。

進路の情報と保育や介護の仕事のイメージがつくように高校生に伝えてもらい
たい。





令和4年度 学内ワークショップ

日時：令和4年12月15日(木)14:50～16:00

場所：会議室

参加者：渡邊、荒木、高橋、高桑、松田、花田、大関、宮地、白崎、小田、木村、城山
小森谷、伊藤(和)、星、浦山、菅野

話題提供者、進行：花田

記録：伊藤(和)

テーマ『羽陽短大の今後の方向性を考える』

・本学は、「保育・幼児教育」と「福祉・介護福祉」を一緒に学び、その専門分野の人材を養成する短大として県内、外に貢献してきました。高校生数が減少し続ける現状を踏まえて今後の本学の方向性、生き方について教職員みんなで考える。

〈参考資料〉・山形県の18歳人口予測、本学の「10の特色」等

1. グループ毎の懇談内容

- ①「保育・幼児教育」と「福祉・介護福祉」の世界で生きてきた本学の方向性
- ② その他、本学の魅力(売り)について、学生募集の方法について (アイディア等)

1 グループ

高桑、花田、宮地、芳賀、加藤

- ・虐待、車中への置き去り等の暗い報道が多いが、明るい話題を授業で提供してはどうか
- ・本学は保育、介護の両輪でがんばっている
- ・コロナ禍でインターンシップができない
- ・医療的ケア児についての学びの場があればいいのではないか

2 グループ

学長、高橋寛、白崎、木村、伊藤(和)、伊藤(一)

- ・養成校の立ち位置、本学では三つの資格がとれる
- ・人生長い目でみた場合の事を外に発信する
- ・リカレント教育、学びなおす環境を整える

3 グループ

松田、小田、城山、小森谷

- ・本学のうり、手作りの教育
- ・学生と教員の関係のメリハリが必要ではないか
- ・高校の方での本学への理解度

- ・ 幼児教育と介護教育両方できる先生がいればいいのではないか
- ・ 学生募集に学生の目線が重要ではないか
- ・ 人間関係が固定され逃げ場がない

4 グループ

荒木、大関、星、浦山

- ・ 安心感が大事
- ・ 保育と介護を結びつけて教員が理解する
- ・ 医療的ケア
- ・ 高校との連携が大事
- ・ 保育と介護の3年、使命感を育てる教育の意識が大事である

工夫できる点

- ・ 医療的ケア、リカレント教育、事業所内保育、人間関係、保育、介護のネガティブな意識の改革等があげられた。

公開授業参観レポート

名前：高橋寛

授業名	保育教育課程論
授業担当者	小森谷講師
参観日時	11月7日(月)③コマ
授業クラス	1-AB
<p>【参観の感想等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所、認定こども園、の3種についての説明に、パワーポイントを有効活用し、わかり易い表にしていた。 ・スマホを活用してのワークもあり、学生の集中力が途切れないように工夫していた。 	

<p>【公開授業全般についての意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体に論理的に段階をたどっての授業の進め方であり、学生の「理解しよう」という気持ち・意欲にプラスに作用する内容であると感じた。 	
---	--

名前：松田水月

授業名	保育・教育課程論
授業担当者	小森谷先生
参観日時	11月7日(月)
授業クラス	1AB
<p>【参観の感想等】</p> <p>パワーポイント等で分かりやすく学生が興味をもって授業に参加できる工夫がたくさんあり良かったと思う。</p> <p>のちに伺ったことだが、パワーポイントなどを学生に送ったり、わからないことも丁寧にメールしたりと細やかで学生が信頼できる授業に取り組んでいることに感銘を受けた。自分自身も、こういったツールを使い学生自身がより興味を持ち、学力がアップする技術も学ばなくてはならないと思った。</p> <p>忙しい中、授業を見せてくださりありがとうございました。</p>	

【公開授業全般についての意見等】

特にございません。

名前： 大関 嘉成

授業名	保育・教育課程論
授業担当者	小森谷先生
参観日時	10月11日(火) 4時限目
授業クラス	1CD

【参観の感想等】

学生全員が、誰も取り残されることなく、授業テーマに「気持ちを向けて」臨んでおり
ました。

印象的だったのが、以下でした。

- ①構成〔主題提示、レビュー（授業内容の大きな流れを捉えられるような内容）に続き、
副次的なテーマ（カリキュラムが必要な根拠）提示・確認、WORK01（“指針～要領解
説書3つに共通している記載を探す”）・確認、WORK02（“H29で改訂により、10の
姿等を共通記載事項とした目的”）・確認・ピアチェック、付随する内容の補足、まとめ、
予習内容の提示、課題レポート〕
- ②一斉学習・グループ学習・個別学習の効果的な実施
- ③ICTツールによるピアチェック-現況（コロナ禍、学生の自己表出具合）における学び
合いに効果的だった。
- ④時間配分・内容の学生へのフィッティング-WORK時間が10～15分で学生も遂行でき
ていた。情報授受の内容・質が10～15分単位で切り替わるため、集中力を継続できる。
学生の反応があまりない時は、ツール上にて柔軟に確認。
- ⑤授業評価の一手段として活用されるであろう課題レポート〔WORKを通した発見学習
により得た学びのアウトプット・自身の意見〕

自身、昨年度の学生の様子・毎時の授業評価・成績を診断的評価の参考材料としてお
り、またコロナ禍を言い訳に、「今まさに目の前にいる」学生にそぐわない教材化・方法
で、学生を「置き去りにしたまま」強引に授業をしていると自戒しております。できると
ころから、少しずつでも試行錯誤を重ねていかねばと思いを新たにしました。

この度は、参観させてくださり、ありがとうございました。

【公開授業全般についての意見等】

例えば、特定の公開授業を設けず、1回以上／年の授業参観を努力目標とすると、弾力的に相互の学びの時間をとりやすいのではないかと思います。

(ただし、申し合わせとして、参観の際は事前に当該授業担当者に申し出る、事後は何らかのフィードバックを行う、年1枚は「公開授業参観レポート」を提出する等の検討も必要かと思います。)

名前：宮地康子

授業名	保育・教育課程論
授業担当者	小森谷先生
参観日時	11月7日(月)
授業クラス	1AB
【参観の感想等】 法制度の難しい分野でしたが、パワーポイント等で分かりやすく伝えてくださっており、 学生が苦手意識を持たずに学習できるような内容で、素晴らしいと思いました。 学生が主体的に取り組むことができるような書き込みする時間の配慮、また一方向の授業ではなく、学生の意見をまとめ共有するという事もされており、1コマが大変充実した授業になっていると感じました。 大変お疲れ様でした。	

【公開授業全般についての意見等】

特にございませぬ。

名前：小田 幹雄

授業名	保育・教育課程論(5回目)
授業担当者	小森谷 一朗 先生
参観日時	令和4年10月11日(火) 4コマ
授業クラス	1年C組D組

【参観の感想等】

授業開始時に、前回までの振り返りと本日の授業についての説明があり、この授業で学ぶべき内容が明確であるとともに、PPTに情報を全て載せるわけではなく、要所要所でワークを取り入れることで効果的な学習になっていると感じた。

また、アプリを使用して学生1人ひとりの意見を求めるやり方も興味深く、大勢の前で発表をすることが苦手な学生も、緊張することなく自分の思いを入力できていたと感じた。なかなか目の前で意見が出ないときはアプリ上の意見を取り上げたり、学生全体の意見の傾向をみたりすることで、全員ですぐに情報を共有でき、非常に利便性が高く、様々な授業に活用することができると感じた。

【公開授業全般についての意見等】

自分の授業改善を考えると公開授業は非常に有用ですので、今後もこのような形式で実施して良いと思います。

名前： 木村 重子

授業名	保育・教育課程論 (5回目)
授業担当者	小森谷 一朗 先生
参観日時	令和4年10月11日 火曜日 4コマ
授業クラス	1年C組D組

【参観の感想等】

- ・授業のはじめに、これまでの授業内容の振り返りと本日の授業についての説明があり、授業の流れがとても分かりやすかったです。また、パワーポイントがよく整理されており、学生にとってスライドがとても見やすく、ポイントが理解できると思いました。
- ・授業後半にスマートフォンを使ったワークがありましたが、学生が意見を記述した順番にスクリーンに掲示されていくことや、互いの意見について賛成参考意見に「なるほど」とリアクションし、全員で画面を見ながら共有できる良さがあり、学生一人一人が授業に参加しているということが分かりました。
- ・午後からの講義の授業でしたが誰一人居眠りする学生もなく、全員が集中して取り組んでおり、改めて作業しながら学ぶことの大切さを感じました。また、まとめについても学生は直前に探す作業をしたり、互いに意見を見たりしているので、より理解が深まったのではないかと思います。

【公開授業全般についての意見等】

- ・先生方の授業を拝見する機会は大変貴重な機会をいただきました。同じ分野の小森谷先生の授業を拝見し、大変参考になり勉強になりました。ぜひ今後も継続していただき、よりよい授業づくりにいかしていきたいです。ありがとうございました。

令和4年度 9月FD・SD懇談会(学生参加) 記録

1. 開催日時 令和4年9月29日(木) 12:25~12:55
2. 場 所 会議室
3. 内 容 目標「年間目標の中間評価と修正を行い、課題を明らかにしよう」
テーマ「学習成果アンケート集計結果から教育改善について考える」
4. 出席者
(教職員17名) 渡邊、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、大関、宮地
伊藤和(司会)、白崎、小田、城山、小森谷、木村(記録)
伊藤一、加藤、宍戸
(学生4名) 阿部慶吾(2-A)、佐々木歩惟(2-A)、佐藤凜香(2-A)、中野智公(2-A)
5. 方 法

懇談会は、教職員が自らの教育活動や職務を振りかえり、教職員・学生が対等な立場で意見交換を行う場である。教職員が一方的に学校の教育を作りあげるのではなく、学生と共に学校(うよたん)の教育をつくり上げていく場である。これらを確認し、「学習成果アンケート集計結果から教育改善について考える」をテーマに4グループに分かれ、「うよたんの教育というのはどうあってほしいのか」について、学生の意見を聴取しながらグループ懇談を実施し、最後に各グループの懇談内容を共有した。

6. 各グループ(発表順)より

グループA 高桑、宮地(発表者)、城山、加藤、佐藤凜香(学生)

- ・聞いているだけでなく、発表、グループディスカッションなど、話し合いを取り入れた授業があると学びやすい。授業で制作した食育の紙芝居などは実習に行った時に使える。
- ・実習に行き、授業の内容を思い出しながら子どもの反応をみると良い振り返りになる。
- ・実技系の科目は、演習だけでなく知識も入れた授業も必要である。バランスが難しい。
- ・休みがちな学生にも環境が整えられているとよい。

佐藤凜香(学生)より

- ・改めて授業の意味を考えることができた。いろいろな角度から、授業だけでかかわるのではなく、先生との雑談できる環境が良い。

グループB 荒木(発表者)、松田、白崎、木村、中野智公(学生)

- ・学生が本音を話して、よい話し合いの時間になった。
- ・学生の求めるものは教員の求めるものとかけ離れている部分はないのか。学生は、勤めてから不安をなくすために直ぐに役立つものを求めている。ためになる授業とは働いた時に実践してみたい授業、就職に役立つような授業…知識や技術は身につくが…そ

うではなくて教員は足りないものを見付けていくこと、やる気やその後の伸びしろを大事にしている。

中野智公(学生)より

- ・授業でのかかわりしかない先生もいるので、いろいろなかかわり方ができると授業ももっと受けやすくなる。

グループC 高橋寛、花田(発表者)、小田、伊藤一、佐々木歩惟(学生)

- ・コロナ禍で一方方向の授業になってしまった。Zoom は集中力が欠けてしまう。授業はやはり対面の方が良い。
- ・授業中に発言したくとも手があげられない雰囲気がある、改善すべきである。
- ・学生は、クラスアピールや文化祭をしっかりとやりたいという思いがある。コロナ禍で、学生はアルバイトができず大変である。
- ・学生からは「学食があるとよい」「冷房がついているとよい」という要望がある。

佐々木歩惟(学生)より

- ・できないことが多い。でもできないこと以外で学生は楽しみを見付けている。学生は、コロナ禍でもできることを、楽しみを見出そうとしている。

グループD 渡邊、大関(発表者)、伊藤、小森谷、宍戸、阿部慶吾(学生)

- ・本学の良さはアットホームな雰囲気である。困ったことや保護者にも言えないことを教員に相談できる良さがある。また、教員だけでなく事務の職員にも言えるというところが良い。本学に入学してよかったという声が多い。

阿部慶吾(学生)より

- ・本学に入学して良かった。もっといろいろなことを相談したいと思った。





令和4年度 10月FD・SD懇談会(学生参加) 記録

1. 開催日時 令和4年10月27日(木) 12:25~12:55
2. 場所 会議室
3. 内容 目標「学生とのコミュニケーションで分別ある使い分けができるような支援を行う」
テーマ「よい授業とは」

4. 出席者

(教職員 17名) 渡邊、荒木、高橋寛、高桑(司会)、松田、花田、大関、宮地
伊藤和、白崎、小田、城山、小森谷(記録)、木村
芳賀、本間、

(学生 4名) 伊藤あゆか(2-A)、佐藤杏優(2-D)、滝口優衣(2-D)、佐藤優花(2-A)

5. 方法

懇談会は、教職員が自らの教育活動や職務を振りかえり、教職員・学生が対等な立場で意見交換を行う場である。教職員が一方的に学校の教育を作りあげるのではなく、学生と共に学校(うよたん)の教育をつくり上げていく場である。これらを確認し、「よい授業とはどのような授業なのかについて考える」をテーマに4グループに分かれ「うよたんの授業はどうあってほしいのか」について、学生の意見を聴取しながらグループ懇談を実施し、最後に各グループの懇談内容を共有した。

6. 各グループ(発表順)より

グループA 渡邊、花田(発表)、宮地、

- ・テキストやプリント等にラインを引きながら解説を行うとわかりやすい。
- ・グループワークの授業が自分にはない気づきに繋がり、とてもよい。グループワークの指定はセンセ以外行っても問題ないのではないか。
- ・パワーポイントによる授業がわかりやすい。ただし、穴埋めに答えを書いてくれないと先生の話ではどこに答えがあるのかわからない。

グループB 松田、白崎(発表)、城山、本間

- ・よい授業を考えるにあたり、悪い授業を先に考えることにした。授業で立たせるなどの行為は良くない。
- ・授業アンケートの結果は先生に届いているのかが疑問である。
- ・遅刻をしてはいけないとしている先生が遅れてくるのは良くない。ただし、ピアノの授業などは練習できるので、遅れてきてほしい。

- ・スライドの早さや説明などに気を遣ってほしい。

グループC 高橋寛、伊藤、小田（発表）、木村

- ・一方通行の授業はつまらない。意見を学生にも言わせてほしい。自分の考えを言える場面を設けてほしい。
- ・パワーポイントによる説明があるとわかりやすい。また、プリントもほしい。試験前に復習ができるので活用している。
- ・コロナ禍ではあるけれども、グループワークをするのはわかりやすい。
- ・学年や2クラスなどいろいろな形態があるが、クラス単位の授業が一番やりやすい。
- ・どの先生も明るく、とっつきやすい先生でいてほしい。自分たちへのリアクションもほしい。
- ・非常勤の先生の関わりが持てないので、構えてしまう。

グループD 荒木、高桑、大関、小森谷（発表）、芳賀、伊藤あゆか(学生)

- ・学生の得意不得意や好き嫌い（先生を含む）、嗜好（書くことを好む、話すことを好むなど）によってよい授業が変わってくる。一概にどれが良くてどれが悪いとは言いづらい。一方で、先生の個性が出る授業があって、同じような授業が続くよりもいろいろあるから面白いではないかという意見も出た。
- ・学生に目的意識を持たせ、実習の経験を多く持つことで主体的に授業に取り組むようになり、良い授業になるのではないか。また、ひいては学生の成長につながるのではないか。

学生から

伊藤あゆか(学生)より

- ・先生と直接話せるのは、とても有意義であった。
- ・私の経験では実習を通して大学の講義にも興味を持てることができた。

佐藤杏優(学生)より

- ・自分が思っていたことが先生も同じように思っていたことがわかってよかった。
- ・学生の気持ちを考えてくれているのだと感じて嬉しかった。
- ・要望をすると先生の負担も増えてしまうので、難しいと思った。

滝口優衣(学生)より

- ・最後のアンケートだけだと本当に授業改善になっているのか疑問だったが、このような場で改善につながるのだと思った。

佐藤優花(学生)より

- ・このような場で先生に本音を話すことで、先生も同じ意見を持っていたことを知ったり、いろいろな工夫をしていることを知ったりできた。お互いにより授業を作れたら良

いと思った。

12月 FD・SD懇談会記録

日時：令和4年12月22日（木）12：20～12：55

場所：会議室

出席者：渡邊、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、宮地、伊藤、小田、小森谷、木村、星、芳賀、加藤、白崎

参加学生：佐藤さくら、佐々木諒斗、高山茜、菅原京華

司会：小田 記録：白崎

月目標：「ゼミの活動を振り返ろう」

テーマ：「社会人経験者から見た羽陽短大・これいいの？これいいね」

懇談会内容

○1グループ（荒木、高橋、高桑、大関、佐藤さくら（2D））

- ・以前に在学していた際には欠席によりすぐ単位が落とされていたが、本学では通告されるので学生にとっては親切であると思う。
- ・教職員の面倒見が良いと感じる。
- ・保護者が同学年に近いということに最初は戸惑った。
- ・ゴミがよく落ちていることが残念である。
- ・先生方へのリスペクトに欠けるところがあることが見えるのが気になる点である。本当は振る舞うべき態度がわかっていると思うため、社会に出て困る前に修正した方が良いと感じる。

○2グループ（渡邊、宮地、小森谷、星、高山茜（1D））

- ・学校の雰囲気は温かく、優しい指導であると感じる。
- ・ピアノの授業が終わるため、2年次での実習に向けて不安がある。
- ・介護や看護のような国家試験がある保育にはないため、単位が取れば資格が取れることの甘さを少し感じる部分もある。
- ・家庭のことをしながらの勉学が本学でバランスよくできていると感じる。

○3グループ（松田、花田、芳賀、白崎、佐々木諒斗（2D））

- ・コロナ禍で授業の際の座席が指定されることで人間関係を築く上でやりやすく感じた。
- ・事務職員や担任の就職のサポートが手厚く安心できた。
- ・授業の課題が少ないが、バイトと両立することができた。
- ・子育ての経験のある方の話は学生にもありがたかった。
- ・クラス内で試験前に助け合うことができた。
- ・公務員の対策が少なかったため、受験を希望している人が集まる機会や場所が欲しかった。

○4グループ（伊藤、小田、木村、加藤、菅原京華（1D））

- ・以前在学していた時は先生との距離があったが、本学では授業でわからないところを質問するとメールで届くため、安心して学べる。
- ・入学当初は緊張したが、職業訓練生の方とも馴染んで学生生活を送れている。
- ・先生に対してのマナーが気になるところが社会人を経験したものとして気になる時がある。
- ・ピアノがいつでも練習できる環境が良い。
- ・絵本の蔵書数が素晴らしい。

○まとめ

- ・本学の特徴である面倒見がよく、アットホームな環境で学修できる環境は学生にとって安心できる要素であるが社会人になるにあたってのマナーとのバランスを取るよう見守っていく必要があると思う。

令和4年度 1月FD・SD懇談会記録

1. 開催日時 令和5年1月26日(木) 12:25~12:55
2. 場所 会議室
3. 内容 目標「2年間、あるいは1年間の学生の成果を見つけて、褒めよう」
テーマ「授業改善アンケート集計結果から授業改善について考える」

4. 出席者

(教職員13名) 渡邊、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、大関
伊藤和、白崎、小田、城山、木村(司会)、宮地(書記)
浦山、伊藤一

5. 方法

懇談会は、教職員が自らの教育活動や職務を振りかえり、教職員が意見交換を行う場である。「授業改善アンケート集計結果から授業改善について考える」をテーマに4グループに分かれ、グループ懇談を実施し、最後に各グループの懇談内容を共有した。

6. 各グループ(発表順)より

- 1 グループ：高橋寛、松田、小田(発表)、木村

- ・講義系の授業は、一方向でなく、学生と教員の双方向のやりとりが必要である。学生と教員で授業を作ることが理想的である。
- ・非常勤講師担当の授業評価のポイントが低めになっている科目がある。専任教員はオフィスアワーを使い、学生がすぐ質問できるが、非常勤の先生に関しては質問することに繋がらないこともポイントが低めである要因の一つではないか。

- 2 グループ：荒木、高桑、白崎(発表)

- ・授業に参加しようとする意欲が低い学生もいる。学生と教員で授業を作るという雰囲気があると良い。
- ・適正のレベルで単位を出せているのか。専攻科に入学後学習の様子をみてみると学習習慣がついていない学生も多くみられる。

- 3 グループ：花田、伊藤和、城山(発表)、伊藤一

- ・理解度が低い科目がある。
- ・動機『幅広い教養を身につけるため』を選択した学生が多く、目的をもって授業を受けているのが結果から汲み取れる。
- ・専攻科の学生は国試対策に取り組んでいるため、前期より学習時間が多い。

4 グループ：学長、大関（発表）、浦山、宮地

- ・結果が3点代については、学生の不満があるのではないか。
なかなか促しても、自由記述は書いてくれないため、研究室での会話や、授業でのリアクションペーパーのやりとりから授業の具体的な評価を知る。それに対して、フィードバックして次回の授業で返事をする事で丁寧さを伝える努力をしている。
- ・勉強時間については、紙芝居やピアノ等の課題がある科目は時間が増えている。
専攻科についても前期から課題を出す科目が多いので、時間数が多くなっている。

【まとめ】

ポイントを絞った授業の作り方があったり、学生に満足感を感じてもらえる授業づくりをしていく必要性を感じた。

学生が自ら学ぶ姿勢が大切であり、学生と教員とで授業を良いものにしていくには、コミュニケーションを充分にとり、一方向ではなく学生が主体的に学ぶことのできるような授業を今後も検討していかなければならない。

2月 FD・SD懇談会記録

日 時：令和5年2月21日（火）12：20～12：55

場 所：会議室

出席者：渡邊、荒木、高橋寛、高桑、松田、花田、宮地、伊藤、白崎、小田、城山、小森谷、木村、星、原田、高橋明、大関

司 会：高桑 記 録：大関

月目標：「今年度の自らの教育活動を振り返り、課題を見つける」

「来年度に向けた明確な教育活動の展望を立てる」

テーマ：「仕事の効率化のために出来ること。今、これは余計だ!!」

懇談会内容

<グループA>（渡邊、城山、小森谷、大関）

・今後は実施しない・頻度を下げる・実施方法を変えることを検討すべきではないかという事柄（現行行われている、あるいは、コロナ禍前に行われていた事柄）に関して、次の7点が挙げられた。

- ①「紙」の使用→会議資料等、PDFで共有してはどうか。
- ②「FD懇談会」→懇談の場は貴重であるが、学生の参加回のみ絞るなど回数を減らせないか。
- ③会議→回数の合理化を図れないか。また、開催方法自体に、ツール（Slack等）を活用して対面・非対面形態を組み合わせるなど、合理化を図れないか。そもそも事前準備（関係各所との相談等）がなされるべきではないか。
- ③「ゼミ旅行」→従来のゼミ活動が再開されれば、実施しなくてよいのではないか。また学生同士の宿泊という経験に不安を覚える学生が増えているかもしれない。
- ④「学園祭」→スタイルを変更してはどうか。たとえばクラスアピールのみとし一般公開は行わない、学内企画のみ行う、あるいは、行わない。予算の使い方も要検討事項であろう。
- ⑤「はぐくみ」→原稿執筆期間に、卒業研究や実習報告会が重なり、一部学生の負担が大きくなっている。休刊できないか。
- ⑥「研究収録」→実習の振り返りに充当するレジュメ掲載に転用できないか。すると、実習報告会への当事者意識の向上やそのレジュメ作成にも充当され、実益が高まりそうである。卒業研究のあり方と併せて検討が必要であろう。
- ⑦「ゼミ紹介」→新入生への教員によるゼミ紹介のスタイルを変更できないか。

・本懇談会で出された話題は、各担当委員・分掌によって、協議されるものとなってほしい。

<グループB>（高橋寛、伊藤、木村、高橋明）

・AIに関する話題が出されたが、本学のような「人を育てる」場では、効率化だけを追求するもので

はないだろう。事務作業においては可能でも、学生とのコミュニケーションにおける効率化は難しいだろう。

- ・図書館業務において、カウンターの対面業務等を学生にしてもらっているが、経費を節約していくからには、「人の力」で対応するところがより必要になってくる。
- ・「外圧」があった場合、小規模校なら上位部署への伝達がなされやすいと考えられるため、それが変化をもたらすきっかけにもなるだろう。
- ・例えば現代では、PCに頼れば「『指一本』で移調ができる」が、そのように効率化を押し進めていくと技術が損なわれるのではないか。教員自身、簡単な計算や漢字の読み書きにおいても既に実感している。
- ・授業において板書を行うか、パワーポイントを使用するかは、授業による適合程度が異なるだろう。しかし、現学生は映像による学びが主となっているようであり、書くことが苦手になっていると感じるため、「より先のこと」を伝えていきたい。

<グループC> (荒木、花田、小田、原田)

- ・会議において、報告事項に要する時間が長くなっている。よって、事前に教員各自が資料に目を通すことで、報告事項は要点のみに絞り、不明な点は質問すれば良いだろう。そして、協議事項により時間を割くべきであろう。
- ・ペーパレス化を図るために、会議資料はPDF化して、教職員にメール送信してはどうか。紙媒体を希望する教職員は各自プリントアウトすることで、所持方法を選択できるようになる。これは、事務職員の製本作業の負担軽減にも繋がる。
- ・休講・補講掲示について、分かりやすいよう改善できないか。例えば、当該週の時間割に変更点を書き込むなどして掲示してはどうか。すると学生もより効率的に、それらの把握が可能になるのではないか。

<グループD> (高桑、松田、白崎、宮地、星)

- ・ICT化を図るために、データ化を検討したい事柄として次の5点が挙げられた。
 - ①求人票→学生が直接アクセスしやすいようにできないか。
 - ②授業変更の掲示→学生の携帯電話から見られるようにできないか。
 - ③欠席届→管理が難しいので、改善できないか。
 - ④会議時間の変更→周知が容易になるようなシステムを作れないか。
 - ⑤会議資料→各教職員がタブレットで見られるようにすれば、ペーパレス化も進むだろう。
- ・委員会内での業務整理を進めるべきであろう。
- ・本「FD懇談会」も、例えば2~3か月に1回にするなど、実施回数を減らす方向で検討しても良いのではないか。
- ・連絡手段として、Gメール以外の連絡ツールを創れば、周知しやすくなるのではないか。

<まとめ>

- ・「何のための業務効率化か」ということを考えれば、我々の本業である学生への授業など、学生指導の充実化を図るための効率化を目指すべきである。無策に効率化を進めるのではなく、その目的を

考えることが大切である。

- ・本懇談会で出された話題を、次年度以降に活かしていきたいものである。教員各位にご協力を宜しくお願いしたい。

令和4年度 山形県私立短期大学協会主催(山形県未来創造プラットフォーム共済事業)
合同研修会『災害への備えについて』

出席者(教職員名) 渡邊、荒木、高桑、松田、花田、大関、宮地
伊藤和(司会)、白崎、小田、城山、小森谷、木村(記録)
星、浦山、本間、伊藤一、芳賀、加藤、高橋

1. 実施日 令和5年2月22日(水) 14:30~15:30
2. 会場 各大学のzoom研修会場・本学5号室
3. 講演 演題『災害への備え』
4. 講師 山形市総務部防災対策課 防災アドバイザー 佐藤明氏
5. 受講対象 本学教職員・東北文教大学短期大学部教職員(オンライン参加)
6. 講演趣旨

近年、気候変動等による災害が県内においても発生しており、学生、生徒、園児を守る教育の現場において、対応のありようが複雑になっており、今までの考えで対応することでは難しいケースが増えている。このような複雑な災害発生メカニズムへの対応を行うには、教職員がある程度の知識習得や理解促進を図ることが必要であり、学内外において対応できる教職員としての人材育成に資することを目的とする。

7. 講演内容

I. 山形市避難所の整備状況等

◇避難所の開設基準としては、

① 風水害・土砂災害での避難所の開設

→災害対策連絡会議または災害対策本部において、気象状況や河川水位状況などを総合的に判断し、市避難所の全部または一部の開設を決定する。

② 地震での避難所開設

→震度4以上で、災害対策連絡会議または災害対策本部の決定がなくとも自動的に全部の市避難所を開設する。

③ 火災・雪害→事象の状況により市長が必要であると判断した場合に開設する。

◇避難所のコロナ禍で変わったこと

・コロナ禍においては、受付要領の変更、症状のある方の別室の準備、パーテーションによる対策等がある。

※パーテーションによる対策 (動画視聴)

◇各避難所に設置されている防災倉庫

- ・防災倉庫は全ての避難所にある。防災倉庫には発電機や投光器があり、他に毛布、食料品、段ボールベット、簡易トイレ、感染症対策キットも備蓄するようになった。

◇コロナ禍で追加になった感染症対策キット

- ・感染症対策キットの中身は、フェイスガード、非接触型体温計、レジ袋(下足袋)、ビニルテープ、タオル、使い捨てスリッパ、次亜塩素酸水液の作り方などである。

◇他に備蓄されているもの

- ・食料備蓄品→従来からの備蓄食料品は、カレー、豚丼など4種類であったが、令和3年度からは白米、パン、おかゆ、カロリーメイトも備蓄され、数年計画で入れ替えが行われている。また、段ボールベット、液体ミルクや生理用品なども備蓄されている。

◇3月13日以降、マスク見直し後も対応は継続する。

◇自治体と避難所の連携要領について

- ・東北文教大学がある南山形地区には5つの避難所、羽陽学園短期大学地区には3つある。羽陽学園短期大学は、他で収容できないときに開設する。
- ・山形市では避難所運営委員会を組織し、運営をしてもらっている。

II. 令和になって避難所を開設した災害

◇令和元年10月の台風19号、令和2年7月の豪雨

- ・榎沢地区、飯塚地区、本沢地区では床上浸水となった。台風19号は、最大時1034人が避難、7月豪雨では最大時840人が避難した。

◇令和3年2月と令和4年3月の福島沖地震(山形市震度4、天童市震度5)

- ・令和3年2月の地震では避難者なし、令和4年3月の地震では蔵王3小と二中に旅行者3名が避難した。

- ・令和2年7月28日豪雨災害では、第二中学校体育館が避難所を開設した。この時はパーテーションがないので、家族単位で距離をとっている。

III. 大雨への備え

◇避難情報

- ・避難情報としては、警戒レベルのレベル4までには必ず避難する。
お年寄りなど、避難に時間がかかる方は、早めに2階へ避難する。
- ・南山形地区ハザードマップ

→大雨の時には東北文教大学へ避難できる。

・高掬地区洪水ハザードマップ

→寺津地域から多くの方が避難してくる。

寺津地区は、3メートル以上の浸水想定区域がひろがっている。「3メートル2階まで水がきますよ」立ち退き避難を進める雰囲気ではなくなっている。

・南山形地区では3メートル未満の浸水想定区域がほとんどだから、2階に避難して命を守ることができる。

◇立退き避難にも危険が伴う

・令和元年の台風19号では、84名(野外50人、自宅34人)が犠牲になっている。

・台風19号での教訓

→避難とは、「難」を「避」けることであり、避難＝立退き避難ではない。

「屋内安全確保」で命を守れるならば、屋内の安全な場所、不必要な水平避難は減らすべきである。リスクを冒しても立退き避難が必要かを考えなければならない。

◇屋内安全確保(2階への避難)で命を守る。

・2階は、大雨の時の避難場所である。避難できるように日頃から準備しておく。

毛布類は2階にも事前に置いておく。夜に大雨になるときは2階で寝るようにする。

IV. 地震への備え

◇山形盆地断層帯地震の被害想定

・直下型地震が発生する確率が高い。

・山形盆地断層帯は、東西から押され、縦にずれる可能性がある。

・寒河江市と中山町の境に、山形盆地断層帯の断層がある。2メートルから3メートルずれている。2500年周期でいつ起きるかわからない。起きた場合は大きな揺れが想定される。

◇地理的特性・天童市と山形市の揺れやすさマップ

・羽陽学園短期大学の位置は震度6強、天童市の西側は震度7の所もある。

・東北文教大学の位置は、断層帯震度7。震度6は立ってられないような揺れがくる。特に大きな揺れが予想されるので、窓ガラスなど上から物が落ちる時は、まずは自分の身を守る。ガラスなどに対する対策が必要である。

・震度7の地震は過去5回ある。直下型地震が起きた特徴的なことは、夜か朝方。

平日の日中に直下型地震は起きたことがない。おきることがクローズアップされたことはない。

◇地震の際の安否確認要領を決める(共助)

- ・近所での避難では旗を揚げる目印型の避難が多い。旗が出ていない家を町内で確認する。

◇山形市避難所について

- ・避難者 3 万人 36000 人は収容できる。10%は想定、避難所を全部使えることを想定している。
- ・西山形小学校の真上が断層帯である。最近、場所を移動して建てた。
- ・断層から 500 メートルが多く倒壊する。大きな地震の時、避難所が使えないときは大学や私立の高校などで請け入れることになる。

V. 火山災害への備え

◇融雪型火山泥流時の避難

※融雪型火山泥流 (動画視聴)

- ・南山形地区では、学校でもしっかり教育されている。
→噴火に気付いたら屋外に避難する。匂いを感じたら鼻や口を覆う。
- ・東北文教大学には噴火から到達まで 1 時間 30 分を予想している。
南山形小学校、南山形コミュニケセンターは使用不可である。

◇山形市民防災センターについて

- ・山形市民防災センターは充実している。消防車やミニカー等もたくさん展示してあるので、子どもさんにもぜひ行って見ていただきたい。

8. 質疑応答

【東北文教大学】

Q:一度使用したパーテーション等はどうしているか。

A:避難者が使ったものは廃棄している。

【東北文教大学】

Q:南山形小学校は避難所として使えないのはどうしてか。

A:山形市立九中が市の避難所になっている。今努力している最中である。

【羽陽学園短期大学(高桑)】

Q:防災倉庫の点検はどのくらいの頻度で行っているか。防災倉庫は、屋外にあると思うので、ネズミなどの害虫対策はどのように行っているか。避難所は体育館等を使っていることが多いと思うので、特に夏季、大雨が降るような時期は、エアコン等がないので、暑さ対策はどのように行っているか。

A:防災倉庫の点検については、発電機等もあるので、年1回、定期的に点検を実施している。熱さ寒さ対策は、大きな課題になっている。



令和4年度 教員個人目標に対する自己評価

(年度当初に明文化した目標一つ一つに対して反省と今後の取り組みをご記入ください)

役職	学長・教授	教員名	渡邊 洋一
－授業としての取り組み目標－			
<p>新型コロナウイルスの感染拡大や新たな戦争の気配など、不安なことが多い昨今だが、保育や福祉に携わることが日々の生活の基本として重要であることをあらためて考える機会としたい。そして、学生諸君が、冷静に科学的に考える習慣を身につけて、責任ある行動のできる社会人となる助けとなる教育を実践したい。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>1年次前期開講の「基礎教養入門」は、教員9名が交替で授業するオムニバス形式の授業だが、その冒頭3回を担当している。入学早々ということで受講生の学びに向けた意識・態度とも極めて良好だが、金曜日の5コマ目ということで疲れも蓄積しており、17:50までの授業は教育効果に疑問が残る。担当教員間で話し合い、問題の共有と対応策を考えたい。</p> <p>1年次後期の「総合科目」は、ほとんど毎回の授業に実験を含めている。</p>		<p>「基礎教養入門」に関しては、担当教員間で話し合い、学生諸君が授業に集中できるよう、内容や時間配分を考えることとした。</p> <p>「総合科目」は、新型コロナウイルスへの対応が令和5年5月8日から季節性インフルエンザなどと同様の扱いとなることもあり、心理学実験も少人数で対面式をとり入れるなどして、アクティブ・ラーニングの体験を多くしたい。</p>	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<p>学生諸君には、教職員も含め、背景も性格も異なる多様な人々と交流し、まず最初に、きちんと人の声に耳を傾ける習慣を身につけてほしい。成人年齢が18歳に引き下げられることもあり、勇気をもって責任ある大人として行動できる社会人となるよう支援していきたい。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<p>新型コロナウイルス対策もあってマスク着用が常態化していることもあり、週1コマの授業では、学生個人を特定することが難しい。</p> <p>「総合科目」では、受講生に比して教室が大きく、着席場所を自由に選択させたために、教室後部に集まることとなった。私語の増加や集中力の低下を招きやすく、教育効果の面で大きな反省点であった。</p>	<p>着席場所を指定することと個人への質問・発表の機会を増やすことで、主体的に授業に取り組めるような雰囲気を作りたい。</p>
---	---

役職	専攻科主任・教授	教員名	<u>荒木 隆俊</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで通り「命・生きる」ということを柱にした授業を心がけ、介護、幼児教育双方に共通する視点を身につけられるような授業を作る。 ・介護福祉士国家試験全員合格。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業については目標に沿った授業を心がけ実施した。しかし、個々の理解度について配慮しながら授業を進めていくための工夫と配慮が足りなかった。 ・介護福祉士国家試験に向けての準備は、早い段階から意識づけを行うようにしたが、各学生の進捗状況が見えず、特に今年度は、個々の学習スタイルに任せきりの部分が多かった。やはり、いかに学修意欲を高めるかが課題であった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の柱は、例年と同様に進めていくつもりであるが、個々の理解の程度については、適宜、確認をしていく。 ・介護福祉士国家試験対策としては、学修意欲を早い段階から持つよう進めていくために、学生の様子や意見をしっかりと取り入れながら進めていく。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・対話を大切にする。 ・介護福祉士国家試験に向けて、年間を通して授業時間以外の学修する意識を持たせる。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<p>・常に対話を心掛け学生と向き合っているが、年々、個々の学生との関わり方に差が生じてきている感を感じた。個々の学生の個性にもっと配慮した対話をすべきであったと反省した。</p>	<p>・一人ひとりの学生とできるだけ関わる機会を多く得るよう努め、各学生の個性を認めながら励まして生活していきたい。</p>
--	--

役職	教授	教員名	<u>柏倉 弘和</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・理念と実践をしっかり結びつけて考えられるような授業を心がける。 ・実習での経験を十分に振り返り、実践知へと高められる力を育てる。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>実習を活かすことはだいたいできたが、学生個人の実践の捉え方の違いを、どのように扱うかが難しい。</p>		<p>実習の映像に対する学生一人一人の捉え方を、もっと大きな視点からまとめて提示したい。</p>	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<p>授業を通して、学生の皆さんの気持ちや状況を受け止めながら関わるように努める。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>学生一人一人を受け止めることは、ある程度はできたがなかなか全員は困難である。</p>		<p>授業から少し離れた内容の話なども織り交ぜながら、一人一人との良好な関係を築きたい。</p>	

役職	教授	教員名	<u>高橋 寛</u>
－授業としての取り組み目標－			
<p>例年のことではあるが、教員の言葉、歌声、ピアノの演奏などのアナログな「耳からの情報」に注意を向けさせ、「聴き取る、書き取る、記憶に残す」という作業を必要とす</p>			

<p>るような教材を更に改案し、そのような授業の進め方を充実させる。これを指向することは、担当教科以外の学生指導という側面にも有効であるはずだ。本学の卒業生たちの就職先から『ピアノをもっと弾けるようになってきて欲しい』との意見が多く寄せられている昨今、「歌うだけ」「ピアノを弾くだけ」のスキルでは、幼児教育の現場では適応できない。スキル・アップすることの喜びを実感できる授業の実施に努める。</p>	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<p>新カリキュラムに移行した1年次の学生とは、接する機会が減り、更にコロナの影響でのマスク越しのコミュニケーションとなったため、なかなか意思の疎通が難しく、顔を覚えることもできなかった。</p>	<p>コロナ感染が減少し、社会的に種々の規制が緩和されていきそうなので、より良い関係性を学生たちと築けそうな予感を持っている。授業の展開方法も改善していきたいと思っている。</p>
<p>—学生とのかかわりとしての目標—</p>	
<p>最近の学生に多く見られる「自分なりに社会のルールを改変して生き抜こうとする」姿にはけっして同調しない。学生たちにとっての「もっとも身近な社会人」としての立場をこれまで同様に重視し、適度な礼節は確保しつつ「高圧的な教師でもなく、我関せずの大人でもない」ことを基本のスタンスとしたい。</p> <p>また、舞台に立ち続けるプロの現役（歌手・役者・演出家・合唱指揮者・・・）として、日常の体調管理や、あるべき対外との交渉術などを、機会あるたびに学生に公開し、または企画への参加・共演を促し、よき見本となるように努める。</p> <p>フットワークを軽く、思考を柔軟に、精神は実直に、大人としても「人生を前進する」姿勢を示していきたい。</p>	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>

役職	学科長・教授	教員名	<u>高桑 秀郎</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで図や写真を使ったり、フローチャート化したりして、分かりやすい授業を心掛ける。 ・マナー化や簡略化しないように丁寧に進める。 ・点呼時の挨拶・返事の重要性を説く。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の日によって、授業時間に差があった。 ・学生が授業に参加できるよう、問を投げかけたり、間違っても、答えることで得られるものがある旨伝えたり訴えたが、クラスによって反応はまちまちであった。 ・点呼の挨拶については、特に後期、1年生の反応が鈍かった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は新しい科目になるので、それを機に改めて授業の組み直しをする。 ・引き続き、寝ている学生が起きよう促したり、授業の内容を理解できるように噛み砕いて伝えるよう努力したりしていきたい。 ・実習を重ねると挨拶の重要性は分かって来るとは思うが、面倒だとは思われても引き続き、指導を心掛けていきたい。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が相談に来やすいよう、研究室の整理を心掛ける。 ・学生指導については、自分のみの独善的な指導にならないよう、他の教職員と情報を共有して進めていく。 ・学生が自立し、主体的に考え、行動できるような働きかけを行う。 ・ソフトな対応を心掛ける。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<ul style="list-style-type: none"> ・整頓は全くダメだった。やろうと思っても、目の前のことを片付けていく、あるいは、それに取り掛かるための意欲がわいてこなかった。 ・今年度は特に大きく問題となるような指導はなかったが、伝えることはしっかり伝えて、それについて他教員の意見も聞きながら進められた。 ・どうしても指示的な働きかけが多かった。引き続き工夫したい。 ・時々、きつい口調の時があると感じた。ただ反省。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事のバランスと併せて、捨てられるもの早目に捨てたい。 ・引き続き、学生に近い教員の意見を参考にしながら拒絶されないようやっていきたい。 ・保育園、幼稚園の先生方の進め方を参考にしながら、年相応の声かけをしていきたい。 ・真面目になり過ぎないように意識する。
--	---

役職	教授	教員名	<u>松田 水月</u>
－授業としての取り組み目標－			
<p>学生個々人の学習方法、習得状況を知り、その学生にあった学習方法を早くから提案する。</p> <p>過去の問題などを、学習の進捗状況に合わせて配布し、ノートを作成し、常にコメントを入れるなどを行い、学習を応援していく。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>どの学生が、何に興味を示し何が苦手なのか早期に個性を把握し、個別の指導等を行ってきたことは今後も続けていくべき点であると評価している。しかし、模試などで安定した点が取れず、むらがある学生に対してその原因を早期に追求し、解決していく必要性は今後も必要だと感じた。</p> <p>今年度は個人の個性が大変強く、グループワークの取り組みについても、うまくいく学生とついていけない学生が見受けられた。教員側も注意をはらいながら行ってきたが、お互いの士気を高めるための方法を検討していく必要がある。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学生に早期から介護福祉士国家試験の現状を知ってもらうため、試験の情報、受験会場の情報を分析し個々人にあった学習方法を提供する。 ・様々な教材を活用し、学生に興味がある学習内容に常に心掛ける。特に絵柄が入ったわかりやすいプリントやパワーポイントなどの教材が効果があった。 ・現任教育の一環として、マナー教育等にも細心の注意をはらう。 ・学習内容が、単調ではなくなぜ必要でどういった分野に繋がるか、根拠を明確にし、理解しやすい授業に心がける。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			

<p>授業の取り組み目標を到達させるためにも、早期からコミュニケーションを円滑に行うよう努める。最高学年で、国家試験や就職と忙しい日々ではあるが、このコロナ禍でも最後の学生生活を少しでも楽しく過ごせるよう、応援していく。</p>	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>介護福祉士国家試験の受験のために、どうしても試験対策に集中してしまう点はある。それと同時に、人と関わる仕事について、より深く自分で考えることが必要に思う。人、高齢者と関わるとはどういうことなのか、学習も大切にしたいうえで、あたりまえだがふと忘れそうになることを、ともに考え、より一層大切にしたい授業を作っていく必要性を感じた。</p>	<p>1年で就職活動・国家試験勉強・実習と奮闘する学生の心境を理解し応援していきたい。例えば学習ノートの交換など何らかのコミュニケーションツールを活用し、早期から学生と意思の疎通、共有が図れるようになっていきたい。</p>

<p>役職</p>	<p>学生部長・ 教授</p>	<p>教員名</p>	<p><u>花田 嘉雄</u></p>
<p>—授業としての取り組み目標—</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生個々の良い点や個性的な発想を見つけたら、その場で褒めるように心掛ける。また、色々な表現や価値観を受け入れ、他の作品にも興味を持てるように、鑑賞や発表の方法を工夫する。 ・授業の意義が伝わるよう意識し、話し方を工夫する。 			
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策		
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムが変わったこともあって1年次後期の保育内容総論は手探りの実施であり、授業全体を通しての流れがスムーズではなかった。 ・今年度は造形分野の授業が少なかったため、学生の表現を褒める機会が少なかった。次年度からは2年次の表現（造形）の指導法や幼児と造形Bがあるので、学生の造形表現の視野を広げられるような授業を意識したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容総論については、授業の流れを整理して学生に授業の意図が伝わるようにする。 ・造形表現分野の授業については授業の取り組み目標を継続し、学生の表現を認めるとともに、学生が様々な表現のおもしろさや価値観に興味を持てるような授業をする。 		
<p>—学生とのかかわりとしての目標—</p>			

<ul style="list-style-type: none"> ・ 頃合いを見ながら、学生が自ら考え、責任を持って行動できるような働きかけをする。 ・ 学生のキャンパスライフが少しでも充実するよう、また、無事卒業できるよう応援する。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍において学生の課外活動が少しでも増えるように工夫をした。来年度は更に学生生活が充実するよう制限の見直しをしたい。 ・ 学生が自ら考え、責任を持って行動できるような働きかけがなかなかできなかったため、次年度も継続して取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の授業がクラス毎から2クラス合同になったこともあり、学生の名前を覚えるのが遅くなった。次年度はまたクラス毎の授業に戻るため、今年度よりも早く学生一人一人の個性を把握するようにする。 ・ 全国的にコロナ対策が緩和されるが、終息はしていない。状況を見ながら、学生のキャンパスライフが少しでも充実するよう対応するとともに、無事卒業できるよう支援する。

役職	図書館長・ 准教授	教員名	<u>大関 嘉成</u>
－授業としての取り組み目標－			
講義形態の授業において「発見学習」となる機会を増やし、授業への参加意識、さらには貢献意識を高める。			
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策		
講義形態に限らず、担当するどの授業科目においても、ほぼ一方的、指示的な進め方になってしまった。毎時ワークシートやミニレポートを課したが、ほとんどの学生が限られた時間内でよく遂行してくれたと思う。	学生の安全に配慮した上で、例えば「教育心理学」においては、追試実験の類を行ったり、心理測定尺度を紹介したりして、学生自身の体験として、授業で取り扱う内容を体感させたい。そして、データを取り扱える事項に関しては、被験者（学生）の協力があって新たな知見が得られることを示し、知獲得への貢献意識を感じさせたい。		
－学生とのかわりとしての目標－			

課題を進める上での目安とする期限を段階的かつ具体的に、その根拠と共に組み立てる。	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>授業の課題に関しては、一部の機会にはなりましたが、提出期限を示した後に、どのような側面から、どのくらいの時間を想定して取り組むのか、モデルケースを示すことができた。学生各位、どの程度それを参考にしてくれたかは定かではないが、進め方のフレームが見えたことで、課題提出が余裕をもってなされるようになった印象が得られた。このことは、多くの学生内にあったであろう「提出期限＝提出日時」のような思い込みが消去された可能性を示唆していると考えられた。これは時間管理が苦手な学生によく伝わり、さらに般化すれば、学生の自己管理の一面を高められる可能性がある。</p>	<p>左記と同様の手続きで、課題への取り組み方のフレームを示したい。ただし、それらをパワーポイント等で明確かつ簡潔に示すなど、伝え方を工夫したい。また、課題提示と同時に、そのフレームを学生自身が作成するプチワークを行うことで、ショート・ミドルレンジでの取り組みの見通しを要する課題に直面した時、同様の思考が行われるよう促したい。</p>

役職	講師	教員名	<u>宮地 康子</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に集中できていない学生を早い段階で声をかけるようにし、クラス全体で学習に向かう意欲が上がるようにさらに個別的な指導を実施する。 ・学生の理解度に合わせて、資料等を作成、配布し、苦手な分野も克服できるような配慮をする。 ・授業等において、学生が自分の意見を話しやすい環境を整え、多様な意見を聞くことや話す機会を設ける。 			
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策		
<p>・全員が学習習慣をつけるまでに時間がかかってしまった。</p> <p>前期の段階での課題の取り組みを早めに進めていく必要がある。</p> <p>・個別指導の時間が足りなかったため、計画的に面談の時間を設ける必要がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を早い時期から出し、提出するという学習習慣を身につけることができるようにする。 ・各科目の問題を解かせ、早期に苦手な科目を自覚し、学習をスタートさせる。 ・担当科目で点を取りにくい部分はポイント 		

った。	をおさえてまとめ、伝える。 ・個別の関りが必要な学生については、計画的に面談を行う。
－学生とのかかわりとしての目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年もコロナ禍の終息がまだ見えない中での生活となるため、早い段階で学生一人ひとりについて把握し、細目な声かけを心がけ、より充実した生活になるよう支援する。 ・受動的な学習でなく、自分で意欲的に学習できるように、随時、頑張りを認めるような声かけを意識的に行っていく。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・全体への声かけでは伝わっていない学生もあり、伝え方を工夫する必要がある。 ・学習以外にも、生活面で主体的に動くように声かけが足りなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メリハリをつけた伝達、指示ができるように工夫する。 ・グループ学習を早い時期から開始する。 ・次年度は社会人であり、生活面でも主体的に動くことのできるように、促していく。

役職	講師	教員名	<u>伊藤 和雄</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育に加え介護、福祉分野への興味、視野を広げられるものの見方、捉え方、多様性を意識できるように取り組む。 ・専攻科において介護福祉士国家試験全員合格を目指す。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・後期授業よりグループワークを取り入れ学生が主体性を持って授業にとりくんでいた。 ・国家試験各自己採点において、障害の理解の点数が伸びているが相変わらず、「社会の理解」の点数が伸びない 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの機会を多く設け学生主体の授業を展開する ・テキストだけではなく関係省庁のホームページ等も参考にし多く取り入れる。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活への不安、不満を一つでも解消できるように学生の声に耳を傾け、積極的 			

にコミュニケーションを図り、授業以外でも、多く学生との関わりを持つよう意識する。	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
・一部の担任学生の不安、不満な気持ちを理解してあげる事ができなかった。	・クラス担任学生個人面談を多く設ける。 ・学生生活への不安、不満を一つでも解消できるように学生の声に耳を傾け、積極的にコミュニケーションを図り、授業以外でも、多く学生との関わりを持つよう意識する。

役職	講師	教員名	<u>白崎 直季</u>
－授業としての取り組み目標－			
・学生の主体的な取り組みを促す授業外の課題提示の方法を工夫する。			
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策		
・1年次学生の器楽の授業が1年半から1年になったため、教材や授業の進め方を工夫することができた。しかし、学生の中には一年でピアノの授業が終わることに不安を覚える学生もいるため、引き続き主体的な学修に取り組めるよう授業や課題の提示を工夫して進めていきたいと思う。	・器楽の授業において、一人一人の進度を見ながら確実にステップアップしていけるよう非常勤の先生方と情報の共有やコミュニケーションを図り、全員で協力しながら学生の指導に当たっていききたい。		
－学生とのかかわりとしての目標－			
・活動や行動を制限された中において、対面でのコミュニケーションを大切にする。			
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策		
・少しずつコロナに対する社会環境も変わりつつある中、安全対策をしながら学生ともコミュニケーションを図れたと思う。イベントなども制限されることが多かったが、年度末には担任したクラスの学生自身が企画、準備を行い、クラスのみinnで卒業旅行に行くことができたのも、嬉しかった。	・1年次の担任を受け持つため、まずは安全に学生生活を楽しく送れるような働きかけ、関りをしていきたい。		

<p>たできごとの一つであった。引き続き、安全に過ごすことを念頭に置き、学生自身が企画する活動を支えられるようかかわっていきたいと思う。</p>	
--	--

役職	講師	教員名	<u>小田 幹雄</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を徹底しつつ、学生が主体的に考え、活動する場面を多くし、実践的な学びに繋げることが出来るよう展開する。 ・グループ演習活動を充実させ、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される社会人基礎力の向上に努める。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>コロナ禍においてグループ演習活動を充実させるには至らなかったが、制約がある中でも感染対策を徹底した上で最大限演習を行うことが出来た。また、昨年度実現できなかった地域の保育園と連携した授業ができたことは大きな収穫であった。次年度は社会人基礎力の向上のためにグループ演習活動をより充実させるとともに、振り返りの時間をしっかりとることで実感の伴った授業を構築したい。</p>		<p>感染対策を徹底することはもちろん、他学の取り組みにおいて有効と思われることは率先して取り入れられるように、同領域の先生方との情報の共有化を深める。また、活動の振り返りを疎かにせず、自分以外の意見を受容しやすい環境にするためにポジティブな声かけをする。</p>	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人ひとりに親身に関わるため、本気で対峙していく。 ・コロナ禍や連続する実習で不安や悩み等のストレスをため込む学生が多くなっていることから、少しでも軽減できるよう傾聴を心掛ける。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	

<p>今年度は1年次生の担任であったが1名の退学者を出すことになってしまった。学生生活の問題ではなく、進路変更によるものであるが、各学生とのコミュニケーションを密にとり、傾聴を心掛けていかなければならないと改めて感じた。2年次生は実習の不安や就職の相談を中心に幅広く声がけし、丁寧に対応することを心掛けた。本学の特徴の一つである丁寧な関わりは今後も継続していく必要性を強く感じた。</p>	<p>授業以外の時間に学生と積極的に関わりを持つとともに、傾聴を意識することで学生の気持ちを理解し、信頼関係を構築していく。学生一人ひとりの個性やおかれている状況を把握し、それらを考慮しながら継続的に関わっていききたい。</p>
--	--

役職	講師	教員名	<u>城山 萌々</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・上手い／下手などの評価軸に依らない造形表現の内発的な楽しさを、学生自ら捉えられるようになることを目指す。 ・ものづくりや素材との触れ合いの中で見つけた問いや気づきを共有し、尊重し合えるようにする。 ・学生が、子どもの造形表現の支援者としての力を身に付けられるような授業づくりを目指す。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>今年度は感染症による公欠などが相次ぐ時期もあり、対応が難しい場面があった。また、遠隔授業とのハイブリッド方式での実施の際に、zoomへの入り方が分からない学生もおり、対面で参加している学生を待たせることになったため、対策が必要であると感じた。</p> <p>図画工作や美術が得意でなかった学生からも、造形の楽しさを味わうことができたという反応があり、目標を達することができている一方で、子ども向けの工作のやり方を学ぶ授業であるという誤解が抜けずに齟齬が出る場面も一部あり、授業の目的を丁寧に説明していく必要がある。</p>		<p>遠隔授業の際には、接続時に時間が掛かる場合を想定した課題の設定をしていく。とくに対面とのハイブリッドで実施する際には、短い時間で出来る遊びや制作を準備しておくようにする。</p> <p>オリエンテーションの際に授業の目的や意義、学んでほしいことを丁寧に説明することに加え、授業の中でも折に触れて伝えていく。</p> <p>また、実践的な工作の紹介も増やすことで、学生の知りたい・身につけたいという気持ちにも応えていくようにする。</p>	

－学生とのかかわりとしての目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生ひとりひとりと丁寧に向き合い、学生が充実した大学生活を過ごしていけるような手助けをしていきたい。 ・学生自身が表現することを楽しめるように、環境づくりや声かけを工夫していきたい。 ・感染症対策をしながらの生活の中で抑圧されている部分やストレスなどに目を向け、少しでも楽しい体験や時間を増やしていけるようにする。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・学生との関わりをなるべく持つようにし、出席確認も毎回1人1人の名前を読み上げて顔を確認するなど心掛けたが、顔と名前の一致には苦労した ・図画工作や表現以外の授業で図工室を使用する場合も多く、環境づくりにはまだまだ改善の余地があると感じた 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔と名前を覚えるための自分なりの自分に合った方法を考えてひとつずつ試していく ・学生が使用しやすいような配置や片付けなども最後までしやすいような工夫をして環境を整える

役職	講師	教員名	小森谷 一朗
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容を精選し、より実践的に生かすことのできる内容を吟味しブラッシュアップを図る。 ・ コロナ禍の状況を鑑み、安全を確保しながら、学生同士のディスカッションによる学び合う授業展開を工夫する。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートや試験の記述内容などから、学修内容の理解については一定の定着を図ることができたと思う。学生がより身近に保育を感じるような事例や教材を可能な限り視覚的に提示することに努めたことが、定着の要因として考えられる。 ・ 今回は、新たな取組として最新型リアルタイム・アンケートシステム「imakiku」を取り入れた双方向の授業を試みた。学生の応答的な関わりのある授業は、学生が安心して学ぶための必須条件であるが、授業形態の制限があることやそもそも自分から発信するこ 			

とに抵抗を感じている学生も少なくない現状の中で、自分の考えを安心して発信でき、また周りの考えにも触れ、自分の考えとの比較ができることは学修の定着にはとても有効であったと思う。	
－学生とのかかわりとしての目標－	
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に学生と関わる意識をもち、意識的に話す機会を多くもつ。 話しやすい雰囲気作りを心掛ける。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> 授業以外で学生との関わりをもつ機会は昨年度よりは増えたものの、まだまだ少なかったように思う。また、常時のマスク着用はコミュニケーションにも障壁となったように思う。しかしながら、限られた条件の中で学生のもつ思いへの傾聴や進路実現の支援をできるだけ行うように努めた。 	

役職	講師	教員名	木村 重子
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> 学生の主体的な学びにつながるように、学生が自ら考え学びを深められるような授業をめざしたい。 授業を通して学んだことと実習等での保育がつながるような授業展開の工夫をしていきたい。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> 「保育原理」では、テキストは用いなかったが「保育所保育指針・幼稚園教育要領」が活用できた。授業を通して学んだことと実習等での保育がつながることを意識し、多岐にわたる内容の中でポイントを挙げ、時には保育の写真や映像等を活用して授業をすすめることができた。しかし一方で、内容が多すぎるあまりポイントがつかめなかったり、PowerPointのスライドが多か 		<ul style="list-style-type: none"> ポイントを絞り、理解しやすく分かりやすい内容を取り上げていくことを心掛ける。「スライドが良かった」という意見もあったので内容を精選したい。 「体験談を沢山聞けて勉強になった」という声もあったので、保育者だった経験をいかし、保育のイメージがもてる授業展開の工夫をしていきたい。また、グループディスカッション、プレゼン 	

<p>ったりしてノートをとる時間がないという声が多く反省した。また、幼稚園見学を経たグループワークの授業が1回のみで少なかった。</p>	<p>テーション等を通して、学生が自分の意見や考えを表現できるような表現力の向上を目指したい。また、授業の中で友人の考えを聞き自分の考えと重ね合わせ、やり取りができるようなコミュニケーション力の向上も目指したい。</p>
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<p>・学生が安心感をもち安定した生活の中で学修できるように、一人一人の学生の話に傾聴しながら丁寧にかかわることを心掛けていきたい。</p>	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<p>・なるべく学生とコミュニケーションをもてるようにと心掛けていたが、全員同じように関わりをもつことは難しかった。また、マスクをしているということもあり学生の顔と名前が覚えられなく申し訳なかった。</p>	<p>・自分から挨拶したり、話しかけたりして積極的に関わるように意識していく。 ・学生が話しやすい雰囲気を心掛ける。</p>

令和4年度 卒業時満足度調査

() は昨年度の値

問①				問②				問③						
答	人数	%		答	人数	%		答	人数	%				
短大の施設、設備、備品の充実度について	非常に満足	31	33.0% (21.1%)	短大の施設、設備、備品の使いやすさについて	非常に満足	29	30.9% (22.8%)	短大の授業、教育課程全般について	非常に満足	48	51.1% (36.6%)			
	やや満足	49	52.1% (55.3%)		やや満足	55	58.5% (59.3%)		やや満足	41	43.6% (61.8%)			
	やや不満	13	13.8% (23.6%)		やや不満	8	8.5% (17.9%)		やや不満	3	3.2% (1.6%)			
	全く不満	1	1.1% (0.0%)		全く不満	1	1% (0.0%)		全く不満	0	0% (0.0%)			
平均	3.17 (3.05)	(無回答)	17	18% (0%)	平均	3.20 (3.12)	(無回答)	18	19% (0%)	平均	3.49 (3.34)	(無回答)	19	20% (0%)
問④				問⑤				問⑥						
答	人数	%		答	人数	%		答	人数	%				
専任教員の授業について	非常に満足	56	59.6% (52.0%)	非常勤教員の授業について	非常に満足	45	47.9% (34.1%)	ゼミ活動とゼミ指導教員の指導について	非常に満足	57	60.6% (56.9%)			
	やや満足	37	39.4% (44.7%)		やや満足	43	45.7% (53.7%)		やや満足	29	30.9% (39.0%)			
	やや不満	1	1% (3.3%)		やや不満	6	6.4% (12.2%)		やや不満	4	4.3% (3.3%)			
	全く不満	0	0% (0%)		全く不満	0	0% (0.0%)		全く不満	1	1.1% (0.0%)			
平均	3.59 (3.48)	(無回答)	17	18% (0%)	平均	3.41 (3.13)	(無回答)	17	18% (0%)	平均	3.56 (3.52)	(無回答)	20	21% (0.8%)
問⑦				問⑧				問⑨						
答	人数	%		答	人数	%		答	人数	%				
クラス担任の指導について	非常に満足	58	61.7% (50.4%)	事務室職員の対応全般について	非常に満足	58	61.7% (53.7%)	学校行事について	非常に満足	38	40.4% (44.7%)			
	やや満足	32	34.0% (43.1%)		やや満足	34	36.2% (42.3%)		やや満足	53	56.4% (51.2%)			
	やや不満	3	3.2% (5.7%)		やや不満	2	2% (4.1%)		やや不満	3	3.2% (4.1%)			
	全く不満	1	1.1% (0.8%)		全く不満	0	0% (0%)		全く不満	0	0.0% (0.0%)			
平均	3.56 (3.71)	(無回答)	17	18% (0%)	平均	3.60 (3.63)	(無回答)	17	18% (0%)	平均	3.37 (3.22)	(無回答)	17	18% (0%)
問⑩				問⑪				問⑫						
答	人数	%		答	人数	%		答	人数	%				
授業以外の課外活動について	非常に満足	33	35.1% (41.5%)	自分の専門職としての技能の向上について	非常に満足	45	47.9% (39.8%)	2年間(もしくは3年間)の自分の過ごし方や成長について	非常に満足	56	59.6% (54.7%)			
	やや満足	53	56.4% (54.5%)		やや満足	47	50.0% (52.8%)		やや満足	37	39.4% (48.0%)			
	やや不満	6	6.4% (3.3%)		やや不満	2	2.1% (6.5%)		やや不満	1	1.1% (7.3%)			
	全く不満	1	1.1% (0.0%)		全く不満	0	0% (0.0%)		全く不満	0	0% (0.0%)			
平均	3.27 (3.33)	(無回答)	18	19% (1%)	平均	3.46 (3.39)	(無回答)	17	18% (1%)	平均	3.59 (3.42)	(無回答)	17	18% (0%)
問⑬				問⑭				問⑮						
答	人数	%		答	人数	%		答	人数	%				
友人たちとの出会いについて	非常に満足	71	75.5% (70.7%)	教員との授業以外での関わりについて	非常に満足	52	55.3% (61.0%)	事務職員との関わりについて	非常に満足	42	44.7% (51.2%)			
	やや満足	16	17.0% (29.3%)		やや満足	37	39.4% (35.8%)		やや満足	42	44.7% (45.5%)			
	やや不満	1	1.1% (0.0%)		やや不満	0	0% (3.3%)		やや不満	5	5.3% (3.3%)			
	全く不満	1	1.1% (0.6%)		全く不満	0	0% (0%)		全く不満	0	0% (0.0%)			
平均	3.76 (3.58)	(無回答)	22	23.4% (0%)	平均	3.58 (3.60)	(無回答)	22	23% (0.0%)	平均	3.42 (3.43)	(無回答)	22	23% (0%)
問⑯				問⑰				問⑱						
答	人数	%		答	人数	%		答	人数	%				
就職活動への支援について	非常に満足	58	61.7% (51.2%)	トラブルを抱えた際の教職員の緊急時の対応について	非常に満足	58	61.7% (54.5%)	学生生活全般について	非常に満足	53	56.4% (50.4%)			
	やや満足	28	29.8% (43.9%)		やや満足	29	30.9% (42.3%)		やや満足	34	36.2% (47.2%)			
	やや不満	3	3% (4.9%)		やや不満	1	1.1% (3.3%)		やや不満	2	2.1% (1.6%)			
	全く不満	0	0% (0.0%)		全く不満	0	0% (0.0%)		全く不満	0	0% (0.0%)			
平均	3.62 (3.60)	(無回答)	22	23.4% (0.0%)	平均	3.65 (3.54)	(無回答)	23	24% (0%)	平均	3.57 (3.54)	(無回答)	22	23% (1%)
問⑲				問20				問21						
答	人数	%		答	人数	%		区間	人数	%				
日常を過ごす環境としての短大について	非常に満足	52	55.3% (48.0%)	羽陽学園短期大学に入学したこと自体を今、どう感じているか	非常に満足	64	68.1% (65.0%)	自身の学生生活を点数化すると100点満点で何点か?	90~100	49	59.8% (56.0%)			
	やや満足	34	36.2% (48.0%)		やや満足	24	25.5% (33.3%)		80~89	17	20.7% (19.8%)			
	やや不満	3	3.2% (3.3%)		やや不満	0	0% (1.6%)		70~79	8	9.8% (13.8%)			
	全く不満	0	0% (0.8%)		全く不満	1	1% (0.0%)		60~69	6	7.3% (6.9%)			
平均	3.55 (3.50)	(無回答)	22	23.4% (0%)	平均	3.70 (3.63)	(無回答)	22	23% (0%)	平均	88.3 N=114, SD=0.61 (84.6)	~59	2	2.4% (3.4%)

※平均は「非常に満足」を「4」、「やや満足」を「3」、「やや不満」を「2」、「全く不満」を「1」として算出。調査は2019年3月14日、各クラスの担任教員により実施された。(協力者:119名)

作成 学内FD担当(2019/03/14)

○卒業時満足度調査 自由記述

◇羽陽短大で特に評価したい点	◆学校側にもっと努力や改善を求める点
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい出会いや友達がつくりやすかった。生徒と教員の距離が近くて話しやすかった ・いろんな授業でいるんな人と出会ったところ ・たくさんの友達と出会えた!! ・人の温かさ ・仲の良さ ・楽しい、先生と仲が良い ・先生も皆もいい人ばかり!! ・先生たちが手厚くサポートしてくれる ・先生との距離が近く、相談する際も最後まで聞いてくれる、とても居心地がいい ・先生と距離感が近い!!すごく楽しい!! ・担任の先生、その他の先生の手厚いサポート（私生活、学業、就職） ・話しやすい先生が多い ・先生たちが話しやすくても話せた ・先生が親身になって相談に乗ってくれた ・先生が親身になって話を聞いてくれたり、寄り添ってくれたりする ・○○先生の爽やかさ、○○先生の元気さ ・○○先生の明るさ ・アットホーム ・アットホームな雰囲気で居心地がよかった ・先輩がひまわりでカワイイ!!、事務の先生が素敵、席自由だとたのしい ・先生方が温かく、優しくて素敵、ピアノがたくさんあって練習しやすい ・ピアノ練習室、Wi-Fi ・図書館に絵本がたくさんあって楽しい ・専門性を学べる、先生が楽しい ・専攻科の楽しさ ・専攻科があるところ ・3年でたくさんの資格・知識 ・実習ががんばった ・就職活動のサポートが良い ・コロナ禍でしたが楽しかった ・行事 ・全体的にきれい ・除雪 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬寒い…8 ・暖房をもっとよくしてほしい ・夏 クーラーきいてなくて暑い、冬 暖房きいてなくて寒い、体調崩す、トイレ汚い ・食堂が欲しい…5 ・売店が欲しい!! ・食堂や購買などがもっと充実してほしい ・購買を増やしてほしい、アオスを売ってほしい ・自販機ももっと色々な種類出してほしい ・自販機がほしかった! ・アオスの自販機が欲しい、ホットのペットボトル自販機が欲しい ・パンを増やしてほしい ・クラスの教室がないのが不便、移動が多い ・設備が少ない ・トイレの便座はついでい ・細かいところを見ると汚れが目立つから、ゼミ等での掃除をもっと充実するべき。特にトイレ ・ゼミ活動を積極的に行えなかった、コロナ禍だったので活動が制限された ・実習時の支援（移動費、教材費など）、弁当販売（おにぎりとか） ・グループによって空きコマの時間が変わるが、私のグループは中間の空きコマが多く大変だ と思うときが何度もあった

○卒業時満足度調査 自由記述

令和4年度 授業改善アンケート 1年 前期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
基礎教養入門	92.9%	84	78	必修だから	幅広い教養	4.39	4.40	4.42	4.51	4.43	4.32	0.0%	0.0%	2.6%	5.1%	91.0%
教育の方法と技術	91.7%	84	77	必修だから	幅広い教養	4.58	4.42	4.43	4.64	4.58	4.40	0.0%	0.0%	6.5%	19.5%	74.0%
教育原理	89.3%	84	75	必修だから	幅広い教養	4.40	4.36	4.43	4.72	4.56	4.40	0.0%	2.7%	6.7%	12.0%	78.7%
教育実習指導	85.7%	84	72	必修だから	自分の専門と関連	4.54	4.49	4.51	4.68	4.57	4.40	0.0%	0.0%	5.6%	16.7%	77.8%
経済学	90.7%	54	49	必修だから	幅広い教養	4.41	4.45	4.41	4.55	4.45	4.37	0.0%	0.0%	10.2%	6.1%	83.7%
子どもの食と栄養A	89.4%	85	76	必修だから	幅広い教養	4.36	4.34	4.29	4.47	4.28	4.25	0.0%	1.3%	6.6%	22.4%	69.7%
子どもの食と栄養B	93.0%	43	40	必修だから	自分の専門と関連	4.63	4.53	4.48	4.60	4.53	4.48	2.5%	2.5%	17.5%	25.0%	52.5%
子どもの生活と福祉	70.0%	20	14	幅広い教養	授業への関心	4.71	4.64	4.71	4.79	4.86	4.71	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
子どもの保健 I	83.3%	84	70	必修だから	幅広い教養	4.54	4.50	4.46	4.66	4.59	4.54	0.0%	1.4%	4.3%	15.7%	78.6%
児童文化	86.9%	84	73	必修だから	自分の専門と関連	4.70	4.63	4.64	4.64	4.70	4.55	0.0%	1.4%	8.2%	20.5%	69.9%
社会的養護 I	50.0%	84	42	必修だから	幅広い教養	4.17	4.26	4.24	4.48	4.29	4.24	0.0%	0.0%	14.3%	9.5%	76.2%
社会福祉概論	79.8%	84	67	必修だから	幅広い教養	4.61	4.54	4.46	4.51	4.61	4.51	0.0%	1.5%	4.5%	14.9%	79.1%
乳児保育 I	23.8%	84	20	必修だから	幅広い教養	4.00	4.25	4.05	3.95	3.65	3.75	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%	85.0%
保育原理	85.7%	84	72	必修だから	自分の専門と関連	4.17	4.18	4.08	4.42	3.89	4.06	0.0%	1.4%	5.6%	12.5%	80.6%
幼児と音楽A(器楽)	71.4%	84	60	必修だから	自分の専門と関連	4.83	4.80	4.83	4.82	4.78	4.78	6.7%	6.7%	25.0%	48.3%	13.3%
幼児と環境	90.5%	84	76	必修だから	幅広い教養	4.59	4.53	4.49	4.68	4.66	4.47	0.0%	0.0%	7.9%	18.4%	73.7%
幼児と健康	86.9%	84	73	必修だから	自分の専門と関連	4.71	4.70	4.66	4.74	4.74	4.68	0.0%	1.4%	1.4%	5.5%	91.8%
幼児と言葉	92.9%	84	78	必修だから	幅広い教養	4.37	4.27	4.29	4.35	4.33	4.19	0.0%	1.3%	2.6%	7.7%	88.5%
幼児と造形A	72.6%	84	61	必修だから	授業への関心	4.80	4.75	4.82	4.75	4.80	4.77	0.0%	0.0%	0.0%	8.2%	91.8%
幼児教育者論	86.9%	84	73	必修だから	幅広い教養	4.47	4.44	4.47	4.66	4.55	4.32	0.0%	0.0%	6.8%	13.7%	79.5%
倫理学	70.0%	30	21	必修だから	幅広い教養	3.86	3.95	3.67	3.86	3.52	3.62	0.0%	0.0%	9.5%	9.5%	81.0%

授業改善アンケート 1年 後期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション シヨブ平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合科目	65.0%	40	26	必修だから	幅広い教養	4.19	4.19	4.19	4.38	4.15	4.08	0.0%	0.0%	7.7%	3.8%	88.5%
文学	73.3%	15	11	必修だから	必修だから	4.45	4.36	4.36	4.45	4.36	4.45	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	90.9%
英語コミュニケーション	79.3%	82	65	必修だから	幅広い教養	4.09	4.15	4.14	4.34	4.00	4.06	0.0%	3.1%	20.0%	26.2%	50.8%
体育実技	50.0%	82	41	必修だから	幅広い教養	4.54	4.56	4.54	4.51	4.46	4.51	0.0%	0.0%	2.4%	17.1%	80.5%
体育講義	95.1%	82	78	必修だから	幅広い教養	4.56	4.54	4.54	4.65	4.51	4.49	0.0%	0.0%	6.4%	6.4%	87.2%
幼児と人間関係	82.9%	82	68	必修だから	幅広い教養	4.41	4.38	4.28	4.59	4.49	4.34	0.0%	0.0%	2.9%	16.2%	80.9%
幼児と表現	87.8%	82	72	必修だから	幅広い教養	4.58	4.53	4.57	4.64	4.56	4.65	2.8%	0.0%	5.6%	12.5%	79.2%
保育内容指導法	95.1%	82	78	必修だから	幅広い教養	4.37	4.42	4.44	4.62	4.51	4.47	1.3%	0.0%	6.4%	17.9%	74.4%
教育心理学	87.8%	82	72	必修だから	幅広い教養	4.44	4.43	4.44	4.69	4.51	4.49	0.0%	0.0%	9.7%	12.5%	77.8%
発達心理学	86.6%	82	71	必修だから	幅広い教養	4.35	4.39	4.37	4.52	4.48	4.34	0.0%	0.0%	7.0%	11.3%	81.7%
保育・教育課程論	80.5%	82	66	必修だから	幅広い教養	4.42	4.47	4.38	4.59	4.47	4.38	0.0%	0.0%	4.5%	16.7%	78.8%
保育内容(環境)の指	73.2%	82	60	必修だから	幅広い教養	4.62	4.60	4.57	4.77	4.73	4.63	0.0%	0.0%	5.0%	16.7%	78.3%
幼児と音楽B(器楽)	61.0%	82	50	必修だから	幅広い教養	4.64	4.60	4.66	4.68	4.64	4.66	4.0%	12.0%	20.0%	42.0%	22.0%
子ども家庭福祉	34.1%	82	28	必修だから	幅広い教養	3.86	3.89	3.96	4.07	3.71	3.75	0.0%	0.0%	3.6%	10.7%	85.7%
子ども家庭支援法	70.7%	82	58	必修だから	幅広い教養	4.62	4.52	4.53	4.72	4.60	4.60	0.0%	0.0%	8.6%	10.3%	81.0%
乳児保育 II	35.4%	82	29	必修だから	幅広い教養	4.59	4.52	4.59	4.62	4.55	4.59	0.0%	0.0%	0.0%	20.7%	79.3%
保育内容総論	75.6%	82	62	必修だから	幅広い教養	4.52	4.48	4.47	4.55	4.50	4.48	0.0%	0.0%	1.6%	17.7%	80.6%
子どもの食と栄養B	80.5%	41	33	必修だから	必修だから	4.39	4.45	4.33	4.24	4.15	4.21	0.0%	3.0%	18.2%	15.2%	63.6%
介護技術演習	85.2%	27	23	幅広い教養	授業への関心	4.74	4.78	4.78	4.83	4.78	4.78	0.0%	0.0%	0.0%	21.7%	78.3%
介護福祉総論 I	77.8%	27	21	必修だから	幅広い教養	4.52	4.57	4.52	4.52	4.52	4.48	0.0%	0.0%	9.5%	9.5%	81.0%
保育実践研究 II	84.6%	65	55	必修だから	幅広い教養	4.44	4.44	4.44	4.51	4.44	4.53	0.0%	0.0%	7.3%	10.9%	81.8%
保育実習指導 I	90.2%	82	74	必修だから	自分の専門と関連	4.54	4.53	4.46	4.51	4.53	4.43	0.0%	0.0%	0.0%	14.9%	85.1%

授業改善アンケート 2年 前期

科目名	回答率	回答者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教え方平均	コミュニケーション シヨク平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満
こどもと音楽B(器楽)	93.5%	77	72	必修だから	自分の専門と関連	4.71	4.74	4.71	4.75	4.74	4.75	8.3%	5.6%	40.3%	31.9%	13.9%
こどもと音楽C(歌)	100.0%	63	63	必修だから	幅広い教養	4.59	4.52	4.54	4.68	4.67	4.65	0.0%	0.0%	0.0%	12.7%	87.3%
介護福祉総論Ⅱ	87.1%	31	27	幅広い教養	幅広い教養	4.78	4.85	4.85	4.93	4.93	4.89	0.0%	0.0%	3.7%	14.8%	81.5%
国語表現法	100.0%	7	7	授業への関心	自分の専門と関連	4.71	4.57	4.57	4.71	4.71	4.71	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
子どもの健康と安全	47.4%	78	37	必修だから	幅広い教養	4.59	4.59	4.54	4.62	4.59	4.59	0.0%	0.0%	5.4%	18.9%	75.7%
子どもの生活と文化Ⅱ	66.7%	72	48	必修だから	自分の専門と関連	4.73	4.69	4.65	4.75	4.75	4.67	0.0%	0.0%	2.1%	20.8%	77.1%
社会的養護Ⅱ	84.6%	78	66	必修だから	幅広い教養	4.56	4.50	4.47	4.58	4.65	4.48	0.0%	0.0%	0.0%	12.1%	87.9%
情報処理演習	88.5%	78	69	必修だから	幅広い教養	4.57	4.61	4.59	4.64	4.59	4.58	0.0%	0.0%	1.4%	7.2%	91.3%
日本国憲法	94.9%	78	74	必修だから	幅広い教養	3.99	3.97	3.91	4.38	3.96	3.84	1.4%	1.4%	5.4%	24.3%	67.6%
保育実践研究Ⅲ	87.8%	41	36	幅広い教養	自分の専門と関連	4.61	4.53	4.50	4.56	4.67	4.67	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	94.4%
保育内容(健康)	62.8%	78	49	必修だから	幅広い教養	4.39	4.41	4.41	4.47	4.27	4.16	0.0%	0.0%	8.2%	24.5%	67.3%
保育内容(言葉)	94.9%	78	74	必修だから	幅広い教養	4.39	4.35	4.26	4.54	4.47	4.35	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	90.5%
保育内容(人間関係)	97.4%	78	76	必修だから	自分の専門と関連	4.45	4.33	4.21	4.64	4.61	4.47	0.0%	0.0%	2.6%	14.5%	82.9%
保育内容(表現)	79.5%	78	62	必修だから	幅広い教養	4.63	4.66	4.56	4.60	4.63	4.63	0.0%	1.6%	3.2%	11.3%	83.9%
保育内容総論	87.3%	79	69	必修だから	幅広い教養	4.58	4.62	4.58	4.70	4.62	4.64	0.0%	0.0%	2.9%	18.8%	78.3%
幼児と理解と教育相談	85.9%	78	67	必修だから	幅広い教養	4.27	4.31	4.16	4.55	4.07	4.13	0.0%	0.0%	3.0%	13.4%	83.6%

授業改善アンケート 2年 後期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教方式平均	コミュニケー ション平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満
図画工作 II	78.0%	41	32	幅広い教養	幅広い教養	4.53	4.41	4.44	4.50	4.47	4.47	0.0%	3.1%	3.1%	9.4%	84.4%
子どもの生活と文化 I	80.5%	41	33	幅広い教養	自分の専門と関連	4.67	4.64	4.61	4.61	4.61	4.70	3.0%	0.0%	6.1%	6.1%	84.8%
保育原理 II	47.4%	19	9	幅広い教養	授業への関心	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	0.0%	0.0%	11.1%	44.4%	44.4%
子どもの保健 II	54.7%	64	35	必修だから	自分の専門と関連	4.77	4.74	4.69	4.86	4.89	4.74	0.0%	0.0%	2.9%	17.1%	80.0%
保育実践研究 I	85.0%	20	17	必修だから	自分の専門と関連	4.71	4.71	4.53	4.71	4.71	4.65	0.0%	0.0%	5.9%	23.5%	70.6%
保育実践研究 II	91.4%	35	32	幅広い教養	自分の専門と関連	4.66	4.72	4.72	4.63	4.59	4.63	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%	81.3%
体育	84.8%	79	67	必修だから	幅広い教養	4.81	4.73	4.70	4.79	4.82	4.81	0.0%	0.0%	1.5%	10.4%	88.1%
保育・教職実践演習(幼稚園)	75.9%	79	60	必修だから	幅広い教養	4.55	4.57	4.47	4.57	4.53	4.50	0.0%	0.0%	6.7%	20.0%	73.3%
特別支援教育入門	75.6%	78	59	必修だから	幅広い教養	4.71	4.75	4.58	4.78	4.66	4.61	0.0%	0.0%	3.4%	13.6%	83.1%
子ども家庭支援論	74.7%	79	59	必修だから	幅広い教養	4.73	4.76	4.69	4.78	4.78	4.75	1.7%	1.7%	3.4%	13.6%	79.7%
子育て支援	91.0%	78	71	必修だから	幅広い教養	4.68	4.69	4.62	4.77	4.73	4.70	0.0%	0.0%	1.4%	11.3%	87.3%
保育実習指導 II	82.3%	79	65	必修だから	自分の専門と関連	4.65	4.60	4.60	4.68	4.65	4.60	1.5%	1.5%	4.6%	21.5%	70.8%

授業改善アンケート 専攻科 前期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教える方平均	コミュニケーション ジョブ平均	3時間以上	勉強時間平均(%)			
													2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満
こころからのくみ I	100.0%	19	19	必修だから	自分の専門と関連	4.00	4.11	4.21	4.74	4.68	4.68	0.0%	5.3%	5.3%	63.2%	26.3%
コミュニケーション技術 I	89.5%	19	17	必修だから	幅広い教養	4.18	3.94	3.71	4.47	4.29	4.12	0.0%	0.0%	5.9%	17.6%	76.5%
医療的ケア I	94.7%	19	18	必修だから	自分の専門と関連	3.94	4.17	4.17	4.67	4.61	4.61	0.0%	5.6%	0.0%	50.0%	44.4%
介護の基本 II	36.8%	19	7	必修だから	自分の専門と関連	4.29	4.14	4.00	4.71	4.57	4.43	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
介護の基本 III	94.7%	19	18	必修だから	自分の専門と関連	4.11	4.28	4.11	4.67	4.44	4.56	0.0%	5.6%	5.6%	22.2%	66.7%
介護過程 I	94.7%	19	18	必修だから	自分の専門と関連	3.89	3.94	4.00	4.56	4.39	4.44	0.0%	5.6%	5.6%	50.0%	38.9%
介護過程 II	89.5%	19	17	必修だから	自分の専門と関連	4.00	4.06	4.12	4.53	4.41	4.59	0.0%	5.9%	0.0%	47.1%	47.1%
介護総合演習 I	89.5%	19	17	必修だから	自分の専門と関連	4.24	4.29	4.29	4.65	4.65	4.65	0.0%	0.0%	5.9%	17.6%	76.5%
社会の理解	36.8%	19	7	必修だから	自分の専門と関連	4.00	3.86	4.00	4.71	4.71	4.43	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%
生活支援技術 I	100.0%	19	19	必修だから	自分の専門と関連	4.11	3.95	4.05	4.47	4.42	4.42	0.0%	5.3%	0.0%	36.8%	57.9%
生活支援技術 III	47.4%	19	9	必修だから	幅広い教養	4.67	4.67	4.44	5.00	4.56	4.78	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	55.6%
生活支援技術 IV	89.5%	19	17	必修だから	幅広い教養	3.82	4.00	3.76	4.65	4.12	4.24	0.0%	0.0%	11.8%	11.8%	76.5%
発達と老化の理解	94.7%	19	18	必修だから	自分の専門と関連	4.11	4.28	4.50	4.67	4.72	4.72	0.0%	5.6%	5.6%	50.0%	38.9%
生活支援技術 II	94.7%	19	18	必修だから	幅広い教養	3.72	3.83	3.67	4.33	3.72	4.11	0.0%	0.0%	5.6%	5.6%	88.9%

授業改善アンケート 専攻科 後期

科目名	回答率	履修者数	回答数	動機1	動機2	理解平均	向上平均	自発的平均	熱意平均	教える方平均	コミュニケーション平均	勉強時間平均(%)				
												3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満
こころからのしくみⅡ	94.7%	19	18	必修だから	幅広い教養	4.50	4.50	4.61	4.89	4.83	4.83	5.6%	11.1%	22.2%	33.3%	27.8%
コミュニケーション技術Ⅱ	100.0%	19	19	必修だから	幅広い教養	4.37	4.42	4.42	4.88	4.58	4.58	5.3%	0.0%	15.8%	36.8%	42.1%
医療的ケアⅡ	94.7%	19	18	必修だから	幅広い教養	4.67	4.72	4.67	4.89	4.89	4.89	0.0%	5.6%	11.1%	38.9%	44.4%
介護の基本Ⅰ	100.0%	19	19	必修だから	幅広い教養	4.21	4.26	4.32	4.74	4.53	4.68	0.0%	5.3%	31.6%	28.3%	36.8%
介護の基本Ⅳ	100.0%	19	19	必修だから	幅広い教養	4.26	4.32	4.21	4.79	4.53	4.58	0.0%	5.3%	21.1%	36.8%	36.8%
介護の基本Ⅴ	68.4%	19	13	必修だから	幅広い教養	4.38	4.54	4.54	4.62	4.62	4.69	0.0%	0.0%	7.7%	53.8%	38.5%
介護過程Ⅲ	100.0%	19	19	必修だから	幅広い教養	4.16	4.42	4.21	4.68	4.37	4.58	0.0%	5.3%	31.6%	26.3%	36.8%
介護総合演習Ⅱ	94.7%	19	18	必修だから	幅広い教養	4.22	4.33	4.22	4.61	4.56	4.61	5.6%	0.0%	16.7%	22.2%	55.6%
社会福祉演習	63.2%	19	12	必修だから	幅広い教養	4.42	4.33	4.50	4.67	4.67	4.58	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
障書の理解	57.9%	19	11	必修だから	幅広い教養	4.27	4.36	4.45	4.73	4.64	4.64	0.0%	0.0%	18.2%	45.5%	38.4%
生活支援技術Ⅴ	89.5%	19	17	必修だから	幅広い教養	4.35	4.41	4.47	4.76	4.65	4.65	0.0%	11.8%	23.5%	29.4%	35.3%
生活支援技術Ⅶ	89.5%	19	17	必修だから	幅広い教養	4.18	4.24	4.29	4.35	4.06	4.29	0.0%	5.9%	5.9%	41.2%	47.1%
生活支援技術Ⅷ	94.7%	19	18	必修だから	幅広い教養	4.67	4.72	4.83	4.94	4.89	4.89	5.6%	0.0%	11.1%	22.2%	61.1%
認知の理解	94.7%	19	18	必修だから	幅広い教養	4.67	4.72	4.83	4.94	4.89	4.89	5.6%	0.0%	11.1%	22.2%	61.1%

羽陽学園短期大学 F D ・ S D 活動報告書
(令和 4 年度)
通巻 16 巻

2023 年 10 月 31 日

編集 F D ・ S D 推進委員会

渡邊 洋一

高桑 秀郎

花田 嘉雄

伊藤 和雄

小田 幹雄

木村 重子

星 亮一

浦山 仁一

伊藤 一夫

芳賀 亜樹子

発行者 渡邊 洋一

発行所 羽陽学園短期大学 F D ・ S D 推進委員会